# <sup>お て ばる</sup> 尾 小 原 遺 跡 (第一次調査)

Okobaru Site

東九州自動車道(都農~西都間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書35

2006

宮崎県埋蔵文化財センター

宮崎県教育委員会では、東九州自動車道(都農~西都間)建設予定地にかかる埋蔵文化財の発掘調査を平成11年度から実施してまいりました。本書には、平成13年度から平成14年度にかけて実施した尾小原遺跡第一次調査の成果を記載しております。

遺跡近辺には県内第二の大古墳群である新田原古墳群(国指定史跡)が著名でありますが、本遺跡では、古墳群以前の後期旧石器時代から縄文時代晩期にかけての生活跡を確認することができました。その内容は、小規模とはいえ、後期旧石器時代をとおした石器群の変遷が把握でき、道具立ての変化をうかがう好資料となりました。また、縄文時代早期の陥し穴状遺構がまとまって発見され、当時の狩猟の様子を垣間見ることもできました。このように、本遺跡からは多くの貴重な成果を得ることができ、本書が地域史構築や学校教育・生涯学習の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた諸関係機関や地元の方々に深く感謝申 し上げます。

平成18年9月

宮崎県埋蔵文化財センター 所長 清野 勉

## 例 言

- 1 本書は、東九州自動車道(西都~都農間)建設に伴い、宮崎県教育委員会が実施した新富町所在の 尾小原遺跡(第一次調査)の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、日本道路公団の委託により宮崎県教育委員会が調査主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。なお、日本道路公団は平成17年10月1日より分割民営化され、西日本高速道路株式会社九州支社となったが、本報告書中では日本道路公団として記載する。
- 3 現地での遺構実測・写真記録等は新町芳伸・原田茂樹・金丸史絵が、遺物実測図は新町他、藤木 聡が整理作業員の補助を得て作成した。
- 4 空中写真については(株)九州航空に、遺物実測図の一部については(株)文化財研究所に、自然 科学分析は(株)古環境研究所にそれぞれ委託した。
- 5 土層断面の色調については、「新版標準土色帖」に拠った。
- 6 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行い、整理作業員の協力を得て、新町が行った。遺物観察 表等の作成には小船井順・児玉 幹・田中達也の協力を得た。
- 7 本書の位置図は、国土地理院発行の5万分の1図をもとに、また遺跡周辺地形図等は、日本道路公 団宮崎工事事務所から提供の1/1000図をもとに作成した。
- 8 本書に使用した記号は、以下のとおりである。

SC…土坑(陥し穴状遺構を含む) SI…集石遺構・礫群

- 9 本書に使用した方位は、主に磁北(M.N.)であり、位置図などの一部は、座標北(G.N.)である。 また、レベルは海抜絶対高度である。
- 10 座標設置は、平成10年度に設置された東九州自動車道新富地区路線測量 2 級基準点「高─13」と 「高─12」の国土座標値を基に設定している。この座標値は、旧平面 直角座標系 II (日本測地系) による。
- 11 尾小原遺跡については、すでに下記文献に概要報告がなされているが、その後の整理等で内容に変更が生じている。したがって、遺跡の内容については、本報告の内容を優先することとする。

宮崎県埋蔵文化財センター2002『東九州自動車道(都農~西都間)関連埋蔵文化財発掘調査 概要報告書 II 』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第64集

宮崎県埋蔵文化財センター2003『東九州自動車道(都農~西都間)関連埋蔵文化財発掘調査 概要報告書Ⅲ』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第76集

- 12 本書の執筆・編集は新町が担当し、小山 博・藤木が補助した。
- 13 本遺跡の出土遺物ならびにその他諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターで保管している。

## 本 文 目 次

第Ⅰ章 はじめに

				1
		•••••		1
	第Ⅱ章 遺跡の環境			
				2
	第Ⅲ章 調査の方法と経過			
	第1節 確認調査の概要	•••••		6
	第3節 発掘調査・整理作業の経過			6
	第Ⅳ章 調査の記録			
	第1節 基本層序			10
	第2節 後期旧石器時代の遺構と遺物			
				18
	2 B・C区の調査 ····································		]	18
	2-1 旧石器 I 期の遺構と遺物			
	2-2 旧石器Ⅱ期の遺構と遺物			
	2-3 旧石器Ⅲ期の遺構と遺物			
	2-4 旧石器IV期の遺構と遺物			
				28
	第4節 縄文時代前期・後期の遺構と遺物			34
	第 5 節 近世以降の遺物			34
	第V章 自然科学分析		THE RESIDENCE OF THE PROPERTY	OT
				36
	第2節 F8・L8地点の植物珪酸体分析			37
	第VI章 まとめ			49
	カ (1 早 ) よ と (5)			44
	1.4	** 4 ±	细子叶(4日 细 )事份好卖主	0.0
	挿 図 目 次	第4表第5表	縄文時代早期遺物観察表 縄文時代後期、近世以降遺物観察表	33
500 B 40		第5表 第6表	縄文時代早期遺物観察表 縄文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果	34
第1図	周辺遺跡分布図	第5表 第6表 3	縄文時代後期、近世以降遺物観察表	34
第2図	周辺遺跡分布図	第5表 第6表 3 5	縄文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果	34
第2図 第3図 第4図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図	第5表 第6表 3 5 7	縄文時代後期、近世以降遺物観察表	34
第2図 第3図 第4図 第5図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図	第5表 第6表 3 5 7 7 8	<ul><li>縄文時代後期、近世以降遺物観察表宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果</li><li>図版目次</li></ul>	
第2図 第3図 第4図 第5図 第6図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1)	第5表 第6表 3 5 7 7 8 11 図版1	縄文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果 図 版 目 次 尾小原遺跡俯瞰 (東より)	
第2図 第3図 第4図 第5図 第6図 第7図 第8図	周辺遺跡分布図	第5表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版1 12 13 図版2	縄文時代後期、近世以降遺物観察表宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果	
第 2 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(3)	第5表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版1 12 13 図版2 14 図版3	縄文時代後期、近世以降遺物観察表宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果	
第 2 図 第 3 図 第 4 図 第 5 図 第 7 図 図 第 8 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(4) 土層断面図(5)	第5表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版1 12 13 図版2 14 図版3	縄文時代後期、近世以降遺物観察表宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果	
第2 第3 第3 第5 第5 第6 第7 第8 第10 図 第110 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図	周辺遺跡分布図 ・昭和33年の遺跡周辺地図 ・周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 ・確認調査トレンチ配置図 ・土層断面図(1) ・土層断面図(2) ・土層断面図(3) ・土層断面図(4) ・土層断面図(5) ・土層断面図(5) ・土層断面図(6)	第5表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版1 12 13 図版2 14 図版3	縄文時代後期、近世以降遺物観察表宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果	
第 2 図 第 3 図 第 4 図 第 5 図 第 6 図 第 7 図 第 8 図 第 8 図 第 11 図 第 11 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図	周辺遺跡分布図 ・昭和33年の遺跡周辺地図・ 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 ・確認調査トレンチ配置図 ・土層断面図(1) ・土層断面図(2) ・土層断面図(3) ・土層断面図(4) ・土層断面図(5) ・土層断面図(5) ・土層断面図(6) ・土層断面図(7) ・ 削平深度状況・調査範囲図	第5表第6表 3577788 112233図版1 1243図版2 144図版3 15 1617	縄文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果 図 版 目 次 尾小原遺跡俯瞰(東より) 尾小原遺跡俯瞰(南より) B区 II ~II 期(VII~IX a 層)遺物出土状況 調査区全景(垂直方向より) C区から A 区方向を望む B 区 I 期(XII層)SI 1・2 検出状況 B 区 I 期(XII層)SI 5 検出状況 C 区 I 期(XII層)SI 5 検出状況	
第 2 図 第 3 図 第 4 図 第 5 図 第 7 図 第 8 8 図 第 8 10図 第 112図 第 112図 第 113図 第 14図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(4) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(6) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器Ⅱ~Ⅲ期遺物実測図	第5表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版1 12 13 図版2 14 図版3 15 16 17 17	縄文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果 図 版 目 次 尾小原遺跡俯瞰(東より) 尾小原遺跡俯瞰(南より) B区Ⅱ~Ⅲ期(Ⅶ~Ⅸ a 層)遺物出土状況 調査区全景(垂直方向より) C区から A 区方向を望む B区 I 期(XII層)SI 1 ・ 2 検出状況 B区 I 期(XII層)SI 5 検出状況 C区 I 期(XII層)SI 5 検出状況 C区 II = (XII層)SI 6 検出状況	
第 2 図 第 3 図 第 4 図 第 5 図 第 6 図 第 7 図 第 8 図 第 8 図 第 11 図 第 11 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図	周辺遺跡分布図 ・昭和33年の遺跡周辺地図・ 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 ・確認調査トレンチ配置図 ・土層断面図(1) ・土層断面図(2) ・土層断面図(3) ・土層断面図(4) ・土層断面図(5) ・土層断面図(5) ・土層断面図(6) ・土層断面図(7) ・ 削平深度状況・調査範囲図	第5表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版 1 12 13 図版 2 14 図版 3 15 16 17 17 18 20	縄文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果 図 版 目 次 尾小原遺跡俯瞰(東より) 尾小原遺跡俯瞰(南より) B区 II ~II 期(VII~IX a 層)遺物出土状況 調査区全景(垂直方向より) C区から A 区方向を望む B 区 I 期(XII層)SI 1・2 検出状況 B 区 I 期(XII層)SI 5 検出状況 C 区 I 期(XII層)SI 5 検出状況	
第 2 図 第 3 図 第 3 図 第 5 日 第 5 日 8 日 8 日 9	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器II~Ⅲ期遺物実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図	第5表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版 1 12 13 図版 2 14 図版 3 15 16 17 17 18 20 20 21 図版 4	縄文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果  図 版 目 次  尾小原遺跡俯瞰(東より)  尾小原遺跡俯瞰(南より)  B区Ⅱ~Ⅲ期(Ⅶ~Ⅸ a 層)遺物出土状況  調査区全景(垂直方向より)  C区から A 区方向を望む  B区Ⅰ期(Ⅺ層)SI 1 を 後出状況  B区Ⅰ期(紅層)SI 5 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(W層)SI 6 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(W層)SI 8 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(Ⅷ層)SI 8 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(Ⅷ層)SI 8 検出状況	
第 2 図 第 3 図 第 3 図 第 5 図 図 第 5 8 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(6) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器 I → II 期違物実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 I 期(IX層) 礫分布図 B・C区旧石器 II 期(IX層) 礫分布図	第5表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版1 12 13 図版2 14 図版3 15 16 17 17 17 17 18 20 20 20 21 図版4	縄文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果  図 版 目 次  尾小原遺跡俯瞰(東より)  尾小原遺跡俯瞰(南より)  B区Ⅱ~Ⅲ期(VII~IX a 層)遺物出土状況  調査区全景(垂直方向より)  C区から A 区方向を望む  B区 I 期(XII層)SI 1・2 検出状況  B区 I 期(XII層)SI 5 検出状況  C区 II ~Ⅲ期(IX層)SI 6 検出状況  C区 II ~Ⅲ期(IX層)SI 8 検出状況  C区 II ~Ⅲ期(IM層)SI 8 検出状況  C区 II ~Ⅲ期(IM層)SI 8 検出状況  B区 II ~Ⅲ期(IM層)SI 8 検出状況  B区 II ~Ⅲ期(IM層)SI 8 検出状況  C区 II ~Ⅲ期(IM層) SI 8 検出状況  C区 II ~Ⅲ期(IM層) SI 10検出状況  C区 II ~Ⅲ期(IM層)SI 10検出状況	
第 2 図 第 3 図 第 3 図 第 5 日 第 5 日 8 日 8 日 9	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器 I → II 期違物実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 I 期礫 I 以層) 礫分布図 B・C区旧石器 II 切(III層) 礫分布図 B・C区旧石器 II 期(III層) 礫分布図	第5表 第6表 3 5 7 7 7 8 8 11 図版1 12 13 図版2 14 図版3 15 16 17 17 17 18 20 20 20 21 図版4	縄文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果  図 版 目 次  尾小原遺跡俯瞰(東より)  尾小原遺跡俯瞰(南より)  B区Ⅱ~Ⅲ期(Ⅶ~Ⅸ a 層)遺物出土状況  調査区全景(垂直方向より)  C区から A 区方向を望む  B区Ⅰ期(Ⅺ層)SI 1 を 後出状況  B区Ⅰ期(紅層)SI 5 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(W層)SI 6 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(W層)SI 8 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(Ⅷ層)SI 8 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(Ⅷ層)SI 8 検出状況	
第 2 図 第 3 図 第 3 図 第 5 5 図 第 5 7 図 図 第 5 7 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(6) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器 I → III 期違物実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 II 期 (IV層) 礫分布図 B・C区旧石器 II 刺(IV層) 礫分布図 B・C区旧石器 II → III 期(IX → III ) 遺物分布図 B・C区旧石器 II → III 期(IX → III ) 遺物分布図 B・C区旧石器 II → III 期(IX → III ) 遺物分布図 B・C区旧石器 II → III 期(IX → III ) 遺物分布図	第 5 表 第 6 表 3 5 7 7 7 8 8 11 2 2 2 2 2 2 2 3 5 5 表	縄文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果    図   版   目 次    区   版   目 次    区   原遺跡俯瞰 (東より)   日   次   日   か   日   か   日   か   日   か   日   か   日   か   日   か   日   か   日   か	
第 2 図 第 3 図 第 3 図 第 5 頁 第 7 8 8 8 9 頁 8 10 図 8 11 12 図 8 11 12 図 8 11 13 図 8 11 14 図 8 11 15 図 8 11 16 図 8 11 16 図 8 11 18 図 8 1	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器 II ~III 期遺物実測図 B・C区旧石器 II 期礫群実測図 B・C区旧石器 II 期(IX層) 礫分布図 B・C区旧石器 II (III 関) (I	第5表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版 1 12 13 図版 2 14 図版 3 15 16 17 17 17 18 20 20 21 図版 4 21 22 22 23 24	羅文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果    図   版   目 次    区   版   目 次    区   版   目 次    区   原遺跡俯瞰 (東より)   区   田期 (MI ~ IX a 層) 遺物出土状況   調査区全景 (垂直方向より)   区   区   区   区   区   区   区   区   区   区	
第 2 図 第 3 図 第 3 第 4 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器II ~ III 期遺物実測図 B・C区旧石器II 期僕群実測図 B・C区旧石器II 期(IX層) 礫分布図 B・C区旧石器II (III 関際分布図 B・C区旧石器II ~ III 期條群実測図 B・C区旧石器II ~ III 則條群実測図	第5表表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版 1 12 13 図版 2 14 図版 3 15 16 17 17 18 20 20 21 図版 4 21 22 22 22 23 24 25	耀文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果    図   版   目 次    区   版   目 次    区   版   目 次    区   原遺跡俯瞰 (東より)   区   原遺跡俯瞰 (南より)   B区   I 平   II 期 (VII ~ IX a 層) 遺物出土状況   調査区全景 (垂直方向より)   C区から A 区方向を望む   B区   I 期 (XII 層) S I 1 を検出状況   B区   I 期 (XII 層) S I 2 検出状況   B区   I 期 (XII 層) S I 5 検出状況   C区   I 平   II 期 (VII 層) S I 5 検出状況   C区   I 平   II 期 (VII 層) S I 8 検出状況   区 II 平   II 期 (VIII 層) 送 I 10 検出状況   C区 II 平   II 期 (VIII 層) S I 10 検出状況   C区 II 平   II 期 (VIII 層) S I 1 1 長	
第 2 図 第 3 図 第 3 図 第 5 頁 第 7 8 8 8 9 頁 8 10 図 8 11 12 図 8 11 12 図 8 11 13 図 8 11 14 図 8 11 15 図 8 11 16 図 8 11 16 図 8 11 18 図 8 1	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(6) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器 I 即遺物実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 II 期(IX層) 礫分布図 B・C区旧石器 II = III (IX層) 隆分布図 B・C区旧石器 II = III (IX層) 2 物分布図 B・C区旧石器 II = III (IX層) 2 地分布図 B・C区旧石器 II = III (IX層) 2 地分布図 B・C区旧石器 II = III (IX = IX = IX = IX = IX = IX =	第5表表 第6表 35 77 788 811 図版 1 12 図版 3 15 16 17 17 18 20 20 21 図版 4 21 22 22 22 23 24 25 29 図版 5 29 29	羅文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果    図   版   目 次    区   版   目 次    区   版   目 次    区   原遺跡俯瞰 (東より)   区   田期 (MI ~ IX a 層) 遺物出土状況   調査区全景 (垂直方向より)   区   区   区   区   区   区   区   区   区   区	
第 2 図 第 3 図 第 3 図 第 5 図 図 図 図 第 5 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(6) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器 II → III 期遺物実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 II 期(IX層)礫分布図 B・C区旧石器 II = III (IX層) 違物方布図 B・C区旧石器 II ー III III (IX III ) 遺物を測図 B・C区旧石器 II = III (IX III ) 遺物を測図 B・C区旧石器 II = III (IX III ) 遺物実測図 超文時代早期(VI III ) 遺物分布図 縄文時代早期(VI III ) 微寒実測図 縄文時代早期(VI III ) 微寒実測図	第 5 表 第 6 表 3 5 7 7 7 8 8 11 図版 1 12 13 図版 2 14 15 15 16 16 17 17 18 8 20 20 20 21 21 22 22 23 24 24 25 29 図版 5 29 30	耀文時代後期、近世以降遺物観察表宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果  図 版 目 次  尾小原遺跡俯瞰(東より)  尾小原遺跡俯瞰(南より)  B区Ⅱ~Ⅲ期(VII~IX a 層)遺物出土状況調査区全景(垂直方向より)  C区から A 区方向を望む  B区Ⅰ期(XII層)SI 1・2 検出状況  B区Ⅰ期(XII層)SI 5 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VII層)SI 6 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VII層)SI 8 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 8 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 10検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 10検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 11検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 11検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 11検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 11検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 11模出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 11 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 11 検出状況  B区組文時代早期散礫検出状況  B区組文時代早期散礫検出状況  B区組文時代早期散礫検路  SC 2 (陥し穴状遺構)完掘  路し穴状遺構の分布	
第 2 図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(6) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器 II → III 期遺物実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 II 期(IX層) 礫分布図 B・C区旧石器 II = III (IX層) 違物方布図 B・C区旧石器 II ー III 明(IX ● IX ●	第5表 第6表 3 5 7 7 7 8 8 11 図版 1 12 図版 2 14 図版 3 16 17 17 17 18 20 20 21 21 22 22 22 23 24 25 29 図版 5	耀文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果  「図」版」目 次  尾小原遺跡俯瞰(東より)  尾小原遺跡俯瞰(南より)  B区Ⅱ~Ⅲ期(VII~IX a 層)遺物出土状況  調査区全景(垂直方向より)  C区から A 区方向を望む  B区Ⅰ期(XII層)SI 1・2 検出状況  B区Ⅰ期(XII層)SI 5 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(XII層)SI 6 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(XII層)SI 6 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(WIII層)SI 8 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(WIII層)SI 10 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(WIII層)SI 10 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(WIII層)SI 10 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(WIII層)SI 11 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(WIII層)SI 11 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(WIII層)SI 11 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(WIII層)SI 11 模型 大況  C区Ⅱ~Ⅲ期(WIIII層)SI 11 模型 大況  区区Ⅱ~Ⅲ期(WIIII 長頭し  II 層遺物出土状況  縄文時代早期散隆検出状況  B区縄文時代早期散隆検当状況  B区縄文時代早期散隆検音、完掘  SC 2 (陥し穴状遺構)完掘  陥し穴状遺構)完掘  陥し穴状遺構の分布  SC 3 (陥し穴状遺構)完掘	
第 2 図 第 3 図 第 3 図 第 5 図 図 図 図 第 5 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図 図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(6) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器 II → III 期遺物実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 I 期礫群実測図 B・C区旧石器 II 期(IX層)礫分布図 B・C区旧石器 II = III (IX層) 違物方布図 B・C区旧石器 II ー III III (IX III ) 遺物を測図 B・C区旧石器 II = III (IX III ) 遺物を測図 B・C区旧石器 II = III (IX III ) 遺物実測図 超文時代早期(VI III ) 遺物分布図 縄文時代早期(VI III ) 微寒実測図 縄文時代早期(VI III ) 微寒実測図	第 5 表 第 6 表 3 5 7 7 7 8 8 11 図版 1 12 13 図版 2 14 図版 3 15 16 16 17 17 18 20 20 20 20 21 22 22 22 23 24 25 29 図版 5 29 29 30 31 32	耀文時代後期、近世以降遺物観察表宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果  図 版 目 次  尾小原遺跡俯瞰(東より)  尾小原遺跡俯瞰(南より)  B区Ⅱ~Ⅲ期(VII~IX a 層)遺物出土状況調査区全景(垂直方向より)  C区から A 区方向を望む  B区Ⅰ期(XII層)SI 1・2 検出状況  B区Ⅰ期(XII層)SI 5 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VII層)SI 6 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VII層)SI 8 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 8 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 10検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 10検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 11検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 11検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 11検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 11検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 11模出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 11 検出状況  C区Ⅱ~Ⅲ期(VIII層)SI 11 検出状況  B区組文時代早期散礫検出状況  B区組文時代早期散礫検出状況  B区組文時代早期散礫検路  SC 2 (陥し穴状遺構)完掘  路し穴状遺構の分布	
第 2 図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器Ⅱ~Ⅲ期遺物実測図 B・C区旧石器Ⅱ期(IX層)礫分布図 B・C区旧石器Ⅱ期(IX層)礫分布図 B・C区旧石器Ⅱ期(IX層)礫分布図 B・C区旧石器II 期(IX層)礫分布図 B・C区旧石器II = III (IX III )	第5表表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版 1 12 13 図版 2 14 図版 3 15 16 17 17 17 18 20 20 21 図版 4 21 22 22 23 24 25 29 図版 5 30 31 31 32 33 40	耀文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果    図   版   目 次    区   版   目 次    区   原遺跡俯瞰 (東より)   日   次    尾小原遺跡俯瞰 (南より)   日   表   2   2   2   3   3   3   3   3   3   3	
第 2 図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図	周辺遺跡分布図 ・昭和33年の遺跡周辺地図 ・周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 ・確認調査トレンチ配置図 ・土層断面図(1) ・土層断面図(2) ・土層断面図(3) ・土層断面図(5) ・土層断面図(5) ・土層断面図(7) ・ 削平深度状況・調査範囲図 ・ A 区旧石器 I → II 期遺物実測図 ・ B・ C 区旧石器 I 期礫群実測図 ・ C 区旧石器 II 期(IX層) 礫分布図 ・ C 区旧石器 II リ (IX層) 礫分布図 ・ C 区旧石器 II = III (IX層) 礫分布図 ・ C 区旧石器 II = III (IX層) 礫分布図 ・ C 区旧石器 II = III (IX層) ※分の表図 ・ C 区 旧石器 II = III (IX層) 違物方の図 ・ C 区 旧石器 II = III (IX層・ IXI層) 遺物実測図 ・ C 区 旧石器 II = III (IXI層) 遺物実測図 ・ C 区 旧石器 II = III (IXI層) 遺物実測図 ・ C 区 旧石器 II = III (IXI層) 遺物実測図 ・ C 区 旧石器 II = III (IXI層) 遺物実測図 ・ C 区 旧石器 II = III (IXI層) 遺物実測図 ・ C 区 旧石器 II = III (IXI層) 遺物実測図 ・ C 区 旧石器 II = III (IXI層) 遺物実測図 ・ C 区 旧石器 II = III (IXI層) 遺物実測図 ・ C 区 旧石器 II = III (IXI層) 遺物実測図 ・ IXI ・ IXI ・ IXI ・ IXI ・ IXI	第5表表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版 1 12 13 図版 2 14 図版 3 15 16 17 17 17 18 20 20 21 図版 4 21 22 22 23 24 25 29 図版 5 30 31 31 32 33 40	耀文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果    図   版   目 次    区   版   目 次    区   版   目 次    区   原遺跡俯瞰 (東より)   区   原遺跡俯瞰 (南より)   B区   I 平   II 期 (WI ~ IX a 層) 遺物出土状況   調査区全景 (垂直方向より)   C 区 から A 区方向を望む   B区   I 期 (XII層) SI 2 検出状況   B区   I 期 (XII層) SI 5 検出状況   C 区   I 期 (XII層) SI 5 検出状況   C 区   I 平   II 期 (WII層) SI 6 検出状況   C 区   I ~ II 期 (WII層) 遺物出土状況   C 区   I ~ II 期 (WII層) 遺物出土状況   C 区   I ~ II 期 (WII層) SI 10検出状況   C 区   I ~ II 期 (WII層) SI 11検出状況   C 区   I ~ II 期 (WIII層) SI 11検出状況   C 区   I ~ II 期 (WIII層) SI 11 長通し   I 層遺物出土状況   縄文時代早期散礫検出状況   B 区縄文時代早期散礫検出状況   B 区縄文時代早期散礫検出状況   B 区縄文時代早期散礫検出状況   B 区縄文時代早期散礫検出状況   B 区縄文時代早期散礫検出状況   B 区 ( M に大状遺構) 完掘   S C 3 ( M に大状遺構) 完掘   S C 3 ( M に大状遺構) 完掘   S C 5 ( M に大状遺構) 完掘   S C 6 ( M に大状遺構) 底掘   S C 6 ( M に大状遺構) 底掘   S C 6 ( M に大状遺構) 底面の小穴群   A 区 1 日 石器	
第 2 図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器Ⅱ~Ⅲ期遺物実測図 B・C区旧石器Ⅱ期(IX層)礫分布図 B・C区旧石器Ⅱ期(IX層)礫分布図 B・C区旧石器Ⅱ期(IX層)礫分布図 B・C区旧石器II 期(IX層)礫分布図 B・C区旧石器II = III (IX III )	第5表表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版 1 12 13 図版 2 14 図版 3 15 16 17 17 17 18 20 20 21 図版 4 21 22 22 23 24 25 29 図版 5 30 31 31 32 33 40	耀文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果    図   版   目 次    区   版   目 次    区   原遺跡俯瞰 (東より)   日   次    尾小原遺跡俯瞰 (南より)   日   表   2   2   2   3   3   3   3   3   3   3	
第 2 図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器Ⅱ~Ⅲ期遺物実測図 B・C区旧石器Ⅱ 期(IX層) 礫分布図 B・C区旧石器Ⅱ期(IX層) 礫分布図 B・C区旧石器Ⅱ期(IX層) 礫分布図 B・C区旧石器Ⅱル町層) 礫分布図 B・C区旧石器Ⅱ~Ⅲ期業群実測図 B・C区旧石器Ⅱ~Ⅲ期業群実測図 B・C区旧石器Ⅱ~Ⅲ期(IX層) 離分布図 B・C区旧石器Ⅱ~Ⅲ期(IX層) 離対介表図 B・C区旧石器Ⅱ~Ⅲ期(IX層) 1	第5表表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版 1 12 13 図版 2 14 図版 3 15 16 17 17 17 18 20 20 21 図版 4 21 22 22 23 24 25 29 図版 5 30 31 31 32 33 40	羅文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果  「図」 版 目 次  尾小原遺跡俯瞰(東より)  尾小原遺跡俯瞰(南より)  B区Ⅱ~Ⅲ期(VII~IX a 層)遺物出土状況  調査区全景(垂直方向より)  C区から A 区方向を望む  B区 I 期(XII層) SI 1・2 検出状況  B区 I 期(XII層) SI 5 検出状況  C区 II ~Ⅲ期(WII層) SI 6 検出状況  C区 II ~Ⅲ期(WII層) SI 8 検出状況  C区 II ~Ⅲ期(WII層) SI 10検出状況  C区 II ~Ⅲ期(WIII图) SI 10検出状況  C区 II ~Ⅲ期(WIII图) SI 11検出状況  C区 II ~Ⅲ期(WIII图) SI 11 校出状況  C区 II ~Ⅲ期(WIII图) SI 11 長通し  II 層遺物出土状況  超文時代早期散礫検出状況  B区 X 2 (陥し穴状遺構) 完掘  SC 2 (陥し穴状遺構) 完掘  SC 3 (陥し穴状遺構) 完掘  SC 3 (陥し穴状遺構) 完掘  SC 3 (陥し穴状遺構) 完掘  SC 6 (陥し穴状遺構) に元掘  B・C区旧石器(1)  B・C区旧石器(2)  B・C区旧石器(3)	
第 2 図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図	周辺遺跡分布図 昭和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器Ⅱ~Ⅲ期遺物実測図 B・C区旧石器Ⅱ期(IX層)礫分布図 B・C区旧石器Ⅱ期(IX層)礫分布図 B・C区旧石器Ⅱ期(IX層)礫分布図 B・C区旧石器II 期(IX層)礫分布図 B・C区旧石器II = III (IX III )	第5表表 第6表 3 5 7 7 8 8 11 図版 1 12 13 図版 2 14 図版 3 15 16 17 17 17 18 20 20 21 図版 4 21 22 22 23 24 25 29 図版 5 30 31 31 32 33 40	羅文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果    図	
第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	周辺遺跡分布図 明和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(5) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器 II ~ III 期遺物実測図 B・C区旧石器 II 期( IX 層)	第 5 表 第 6 表 3 5 7 7 7 8 8 11 2 2 2 14 2 図版 3 15 16 16 17 17 18 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	羅文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果    図	
第 2 図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図	周辺遺跡分布図 明和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(6) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 A区旧石器 I ~ III 期遺物実測図 B・C区旧石器 I 期線分布図 B・C区旧石器 I 期( IX 層)	第 5 表 表 第 6 表 第 6 表 第 6 6 表 第 6 6 表 第 6 6 表 8 1	羅文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果    図	
第 2 図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図	周辺遺跡分布図 明和33年の遺跡周辺地図 周辺地形図・調査区位置図 グリッド配置図 確認調査トレンチ配置図 土層断面図(1) 土層断面図(2) 土層断面図(3) 土層断面図(5) 土層断面図(6) 土層断面図(7) 削平深度状況・調査範囲図 B・C区旧石器 I 判職分布 B・C区旧石器 I 期職分布 B・C区旧石器 I 期職分布 B・C区旧石器 II 期 (IX層) 礫分布図 B・C区旧石器 II 期 (IX層) 礫分布図 B・C区旧石器 II = III 期 (IX 回) 遺物方布図 B・C区旧石器 II ~ III 期 (IX 回) 遺物 実測図 B・C区旧石器 II ~ III 期 (IX 回) 遺物 実測図 B・C区旧石器 II ~ III 期 (IX 回) 遺物 実測図 B・C区旧石器 II ~ III 期 (IX 回) 遺物 実測図 8・C区旧石器 II で III 期 (IX 回) 遺物 実測図 組文時代早期 (VI 回) 遺物 方面 図	第 5 表 表 第 6 表 第 6 表 第 6 6 表 第 6 6 表 第 6 6 表 8 1	羅文時代後期、近世以降遺物観察表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果    図	

## 第 I 章 はじめに

#### 第1節 調査に至る経緯

東九州自動車道延岡~清武間は平成元年に基本計画がなされた。平成9年12月には門川~西都間については整備計画区間となり、このうち都農~西都間は建設大臣(現国土交通大臣)から日本道路公団へ施行命令が出された。

その間、県教育委員会文化課(現文化財課)では、 平成10年度に延岡~西都間の決定路線上の詳細な遺跡 分布調査をおこない、それに基づき埋蔵文化財保護に ついて関係機関と協議を重ねた結果、工事施工によっ て影響を受ける部分については工事着手前に発掘調査 を実施することとなった。

調査にあたっては高速道対策局・日本道路公団九州 支社宮崎工事事務所・東九州自動車道用地事務所と綿 密な打合せをおこない、調査の時期や問題点、確認調 査の地点設定について協議した。

#### 第2節 調査の組織

本遺跡の調査・整理報告にあたって以下の組織が準備された(平成13~18年度)。

#### (調査主体)

#### 宮崎県教育委員会

#### 宮崎県埋蔵文化財センター

所	長	矢野	剛	(平成13年度)
		米良	弘康	(平成14・15年度)
		宮園	淳一	(平成16・17年度)
		清野	勉	(平成18年度)
副	所 長	岩永	哲夫	(平成13~18年度)
		菊地	茂仁	(平成13年度)
		大薗	和博	(平成14~16年度)
		加藤	悟郎	(平成18年度)
総系	务課 長	菊地	茂仁	(平成13年度)

大薗 和博(平成14~16年度)

宮越 尊(平成17・18年度)

総務係長 亀井 維子(平成13年度)

野邊 文博(平成14年度)

主幹兼総務係長石川 恵史(平成15~17年度)総務担当リーダー高山 正信(平成18年度)

#### (調査第一課)

調査第一課長	血髙	哲郎	(平成13年度)
	児玉	章則	(平成14・15年度)
	高山	富雄	(平成16~18年度)
調査第一係長	谷口	武範	(平成13~16年度)
主幹兼調査第一係長	長津	宗重	(平成17年度)
調査第一担当リーダー	長津	宗重	(平成18年度)

**調査第二係長** 長津 宗重(平成13~15年度) 菅付 和樹(平成16・17年度)

調査第二担当リーダー 菅付 和樹(平成18年度)

#### 調査担当

査 新町 芳伸(平成13~15年度)
 主 査 原田 茂樹(平成13·14年度)
 調 査員 金丸 史絵(平成14年度)

#### 整理・報告担当

主 查 新町 芳伸(平成13~15年度)

#### 整理・報告補助担当

査 小山 博 (平成16・17年度)主 事 藤木 聡 (平成16・17年度)主任主事 藤木 聡 (平成18年度)

#### 調査指導委員(所属は調査当時・五十音順)

泉 拓良(奈良大学) 小畑弘己(熊本大学) 田崎博之(愛媛大学) 広瀬和雄(奈良女子大学) 本田道輝(鹿児島大学) 柳沢一男(宮崎大学)

#### 調査助言(所属は調査当時・五十音順)

加藤真二(文化庁) 佐藤宏之(東京大学) 橘 昌信(別府大学) 松田清孝(宮崎県総合博物館) 宮田栄二(鹿児島県教育委員会)

#### 調査協力

一ツ瀬土地改良区

## 第Ⅱ章 遺跡の環境

#### 第1節 地理的環境

尾小原遺跡は、新田原台地の南西端、宮崎県児湯郡 新富町大字新田字尾小原に所在する。遺跡は新田原台 地を開析して南に流れる藤山川の源流部分にあたる。 台地は舌状に伸び、遺跡は南西に緩やかに下る尾根上 に位置する。東側は藤山川に面し、川と台地面の比高 差約30mを測る。そのため、本遺跡の東側は急崖と なる。南側は約 200m の奥行きで平坦面が延び、そこ から傾斜を急にして藤山川に至る。西は藤山川支流の 小開析谷が切れ込み、南面同様傾斜を急にして谷に至 る。台地上は現在、耕作地として整備されたため、本 遺跡の北端約10%は新田原台地と同じ面で標高 80m を測るが、残り約90%は南に10mほど低くなり標高 70m 程を測る。調査区の西に町道が通っており、谷 を越えて祇園原古墳群が位置する台地面に続く。この 道の尾根の付ケ根部分から谷までの傾斜は、周囲の地 形と土地の利用状況からみて、旧地形の傾斜とほぼ同 じだと思われる。

この地域は戦後になって耕作地として拓かれたが、 それまではマツを中心とする山林であったという。こ れは、新富町が行った町内の遺跡調査に於いて行われ た風媒花粉組成分析(1)でも明らかにされており、縄文 時代後期まで優勢であった照葉樹林は縄文時代晩期以 降にその勢いが衰え、弥生時代に入るとさらに衰退し てくる。代わってアカマツやコナラを中心とする二次 林が増える。弥生時代中期から古墳時代にかけてマツ が著しく増加してきたことが、ほぼ間違いないと推定 されている②。先に記したように本遺跡が第二次大戦 頃までマツ林であったことは、マツの植林の有無にか かわらず、この周辺の植生はあまり変わらなかったと 思われる。その後、南向きの斜面を利用した果樹栽培 と、南部分の割と平坦な場所を利用したタバコや茶、 大根・甘藷といった作物の栽培地となり、作業の機械 化に伴って稼働効率がいいように平坦に削平されてい る。しかし、灌漑施設として調査区内に井戸が設置し てあり、藤山川との比高差が優に 20m をこえる割に は地下水位が高いこと、本調査区内の西に谷部分を有 することから、以前は湧水地点も存在したことが推測 される。

### 第2節 歴史的環境

#### (1) 旧石器時代

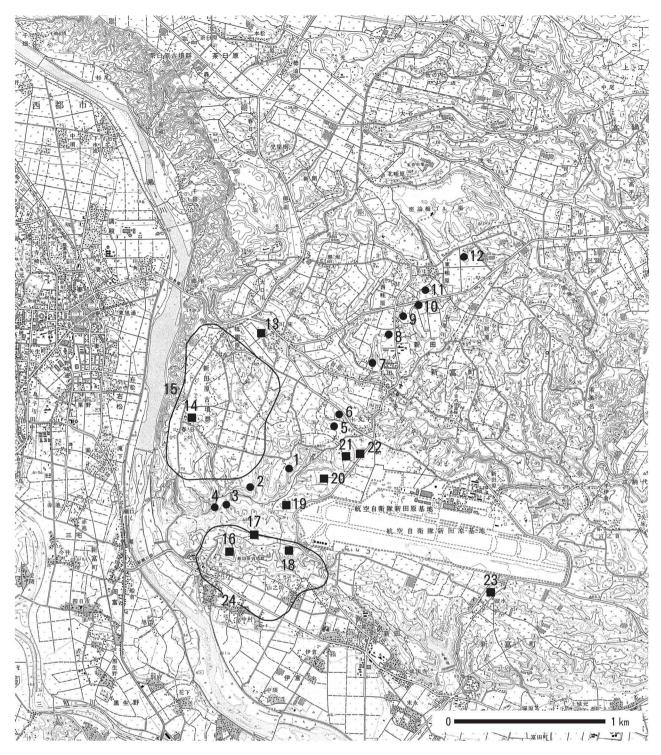
本遺跡の周辺に所在する旧石器時代の遺跡としては瀬戸口遺跡、溜水遺跡、銀代ケ迫等がある。本遺跡の西に位置する瀬戸口遺跡では、AT層上の褐色でパミスを含む層(小林軽石を含む層相当か?)から焼土を伴わない集石遺構1基と黒曜石の細石刃や細石刃核が確認されている<sup>(3)</sup>。特筆すべき事項として畦原地区で1980年に大野寅夫氏によって表採・分類された「畦原型細石核」があり、南九州を代表する標識資料となっている。湧水地点を身近に持つ溜水遺跡では、AT直上のローム層で配石を伴う集石遺構が検出されている。本遺跡から南に1kmほどに所在する銀代ケ迫遺跡ではナイフ形石器やラウンドスクレーパーを、南西に所在する祇園原遺跡でも尖頭器を確認<sup>(4)</sup>しており、この時代から本遺跡周辺に人々の生活の痕跡を認めることができる。

#### (2) 縄文時代

縄文時代の遺跡は調査例が比較的多く、本遺跡の西に位置する瀬戸口遺跡では、押型文土器や貝殼文土器、打製石鏃・打製石斧・磨石・凹石・打欠石錘等が確認されている(5)。また、南に位置する七又木遺跡・銀代ケ迫遺跡では配石をもつ集石遺構が確認されるなど、新田原台地上で多くの遺跡が調査されている。

#### (3) 弥生時代

弥生時代になると、新田原台地東側の低地にも多く 遺跡が分布するようになる。今別府遺跡は海岸線から 内陸に 1.3km ほど入った砂丘上に位置する。ここで は板付式の土器が確認され、大陸文化の伝播と湿地帯 を利用した稲作がなされたのではないかと見られてい る。他にも、近隣に鬼付女西遺跡、園田遺跡、鐙遺跡 と海岸線に近い場所の遺跡が確認されており、弥生時



### ● 東九州自動車道関連遺跡(新富町内のみ)

- 1. 尾小原遺跡 2. 向原第1遺跡 6. 勘大寺遺跡
- 3. 藤山第1遺跡 8. 西畦原第2遺跡 9. 西畦原第1遺跡 10. 東畦原第3遺跡
- 4. 藤山第 2 遺跡
- 5. 永牟田第1遺跡

- 7. 上新開遺跡 11. 東畦原第 2 遺跡 12. 東畦原第 1 遺跡

#### ■ 新富町調査遺跡

13. 川床遺跡 14. 瀬戸口遺跡 15. 祇園原古墳群 16. 銀代ケ迫遺跡 17. 八幡上遺跡 18. 七又木遺跡 19. 藤山迫遺跡 20. 新田原B遺跡 21. 新田原A遺跡 22. 永牟田遺跡 23. 溜水遺跡 24. 山之坊古墳群

#### 第1図 周辺遺跡分布図

代中期や後期の生活の痕跡を垣間見ることができる。 一方、台地上でも新田原遺跡では花弁状住居の検出や 中溝式土器という地域の独自性を示すような遺構や遺 物が確認されているほか、八幡上遺跡でも花弁状住居 が確認されており、弥生時代の生活の場の広がりを見 ることができる<sup>(6)</sup>。また、溜水遺跡では耕作土から石 庖丁が、同様に祇園原や園田、江ノ口からも採集され ていることから、稲作を中心とする農耕の存在が推測 されている。

#### (4) 古墳時代

この時代は新富町でも最も大規模な遺跡が見られる時代である。新田原台地の西の端に位置する祇園原古墳群は、西都原古墳群に劣らないほどの数や様式の古墳が見られる(\*\*)。他に新田原台地南西部の山之坊古墳群や南東部の塚原古墳群などもみられる。また、単独の遺跡として竹淵C遺跡や銀代ケ迫遺跡のように新田原台地の南西縁辺部の遺跡や北田遺跡や今別府A遺跡などのように東部縁辺部でも調査されている。

#### (5) 古代

日向の国が律令制度のもと国家体制の中に整然と組み込まれる時期に当たる。現在の西都市には国衙が置かれていた。新富町は西都市の東方に位置し、舟運に利用できる一ツ瀬川も西都市まで通じていることから、交通網の要所として利用されていたと思われる。また、「児湯郡印」の伝世もあり、近くに郡衙もあったことが考えられている。こうして国衙や郡衙の所在及び交通の要所である新富町は、それらの施設及び諸々の状況から、政治的経済的・文化的に強い影響を受けていたことが考えられる(8)。

#### (6) 中世

新富町は、開析谷に集まる水や湧水池から水を利用 した迫や谷の開発があった。これらは生産性が高く、 これらの地をもとに荘園が散在している。

領主別に見ると「島津庄」「安楽寺領」と皇室領である「日向国富庄」のうち三つの合計五カ所がみられる。この後も、荘園支配を巡って伊東氏や土持氏が登場してくる。島津氏や大友氏もその勢力を広げていく

中で幾多の攻防を繰り返し、支配地を広げては山城を築き、支配の拠点とした。その中にあって、寺社も教 勢を分けていた。

南北朝争乱以後は、本蓮寺を中心とした日蓮宗と大 光寺を中心とした禅宗がその勢力を競っていた。その 中で銅鋳製経筒や陶製経筒、多くの石塔群が残される こととなった。また、本遺跡所在地区内でも工事中に 蔵骨器が出土している<sup>(9)</sup>。

#### (7) 近 世

近世になると、豊臣政権が全国を平定し、九州平定 も図った。その結果、新富町は佐土原藩(藩主島津氏) と高鍋藩(藩主秋月氏)に分かれた形で治められるこ ととなった。佐土原藩では外城制をしき、都於郡・三 納・三財をはじめとして富田新田を含めた五つの地区 で五外城を完成させた。

近世においても土地の生産性は高く評価され、寛文 年間の記録では旧高鍋藩の日置・三納代、旧佐土原藩 の富田・新田井倉を合わせて6,714石余りの石高が算 出されている。また、馬の生産にも熱心で、春日神社 東側や新田原遺跡近辺では当時の牧土手が見られるほ か、勘大寺遺跡の所在地字名で「駒取場」等の地名も 残っている。

#### 【註】

- (1) 新富町教育委員会1992『七又木地区遺跡 八幡上遺跡 七又 木遺跡』新富町文化財調査報告書第13集
- (2) 註(1)に同じ
- (3) 新富町教育委員会1986『瀬戸口遺跡』新富町文化財調査報告 書第4集
- (4) 新富町教育委員会1990『溜水遺跡』新富町文化財調査報告書 第11集
- (5) 註(3)に同じ
- (6) 新富町1982『新富町史』通史編
- (7) 註(6)に同じ
- (8) 註(6)に同じ
- (9) 註(6)に同じ



第2図 昭和33年の遺跡周辺地図

## 第Ⅲ章 調査の方法と経過

#### 第1節 確認調査の概要

本調査に先立って行われた確認調査では、作付けの 関係で対象面積のうち約  $15,400 \,\mathrm{m}^2$  に対して  $3 \,\mathrm{回に分}$  けて順次行われた(第  $5 \,\mathrm{図}$ )。

調査方法は、用地幅杭を起点に 10m グリッドを設定し、グリッドに合わせて 2m×2mのトレンチを設定・掘り下げるものである。掘削は人力を基本とし、遺物・遺構等が確認されたトレンチはそのまま本調査まで保存するようにした。遺物・遺構が未確認の場合は最終的に重機等で段丘礫層まで掘り下げた。また、トレンチ周辺を人力・重機併用で精査し、遺跡範囲の確定に努めた。

- ・一次調査(平成13年2月5日~2月15日/6日) 耕地整理・天地返し等による地形の変化を把握す る。いくつかのトレンチで剥片・石核数点が出土。 遺物包含層の把握。
- ・二次調査(平成13年5月14日~6月1日/13日) 全トレンチにおいて礫層付近までの天地返しが確 認される。遺物包含層の残存なし。
- ・三次調査(平成13年8月7日~9月4日/14日) 耕地整理・天地返し等による地形の変化を把握す る。アカホヤ下の黒褐色層から黒曜石原石、小林軽 石を含む層の上面で土坑・礫群ならびに剥片等を確 認。

確認調査の結果、まず、緩慢な傾斜地を削平・盛り 土することで数段の畑地としたため、遺物包含層の多 くが失われていると判明した。一方で、残る遺物包含 層は旧石器時代から縄文時代にかけてのものと把握さ れ、約5,500㎡について本調査が必要になった。また、 掘削深度等の安全管理の上で十分な精査の叶わなかっ た AT 下位に予想される遺物包含層については、本 調査中に再度精査することとした。

なお、今回の調査区は用地引渡し終了分のみとなっており、今後も随時確認調査が必要となっている。

#### 第2節 発掘調査の方法

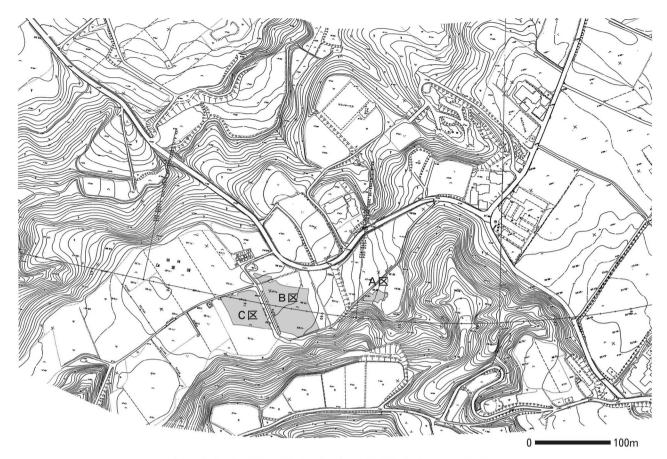
調査対象地は、北東側の平場から崖際をA区、A区から約10m段落ちする南側畑地のうち農道北をB区・農道南をC区と便宜上呼び分けた(第3図)。調査はB・C区から順次進め、雨期を避けた秋から冬にかけてA区を精査した。

調査はまず、重機で客土を除去し、傾斜に沿って削平された各土層面を検出した。各調査区には国土座標北を主軸に10m×10mのグリッドを設定した。グリッドの名称は東西方向について西からA、B、C…、南北方向を数字の1、2、3…とし、このアルファベットと数字の組み合わせでA1、A2グリッド等と呼ぶこととした(第4図)。地形復元は内挿法を駆使した。掘削は、当初、確認調査時の無遺物層を順次重機で除去予定であった。しかし、調査過程で火山灰層を除く全層準より遺物の出土をみることが判明し、火山灰層以外はすべて人力掘削となった。なお、土層確認のためB・C区内でイワオコシ・その下位の砂礫層まで部分的に掘り下げを実施した。

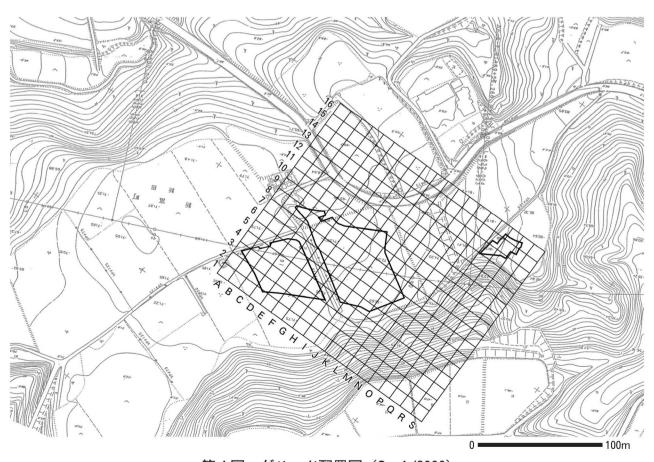
#### 第3節 発掘調査・整理作業の経過

平成13年11月中に機材搬入から表土剥ぎ、グリッド設定、遺構検出まで行ない、C区掘削から着手した。12月にはB区の表土剥ぎ・遺構検出・掘削を進めた。この間、季節風が厳しくその対策が大事となった。平成14年1月に入ると、B・C区に先行トレンチをあけ、その後重機でC区小林軽石層・B区クロボク・アカホヤ層を除去した。2月にB・C区の旧石器包含層の掘削を進めた結果、3月になると縄文時代早期の土坑(後に陥し穴と判断)や旧石器時代の礫群等が検出された。

平成14年度は4月から5月にかけてAT上位の包含層を掘削し、続く6月にはAT下位のXII層の精査に着手した。6月中にC区の調査は終了し、8月一杯までB区の遺物包含層の完掘に務めた。最終的に、掘削は、B・C区ともにXIII層上面までの全面調査およびXV層までの25%調査を行った。また、これと平行して



第3図 周辺地形図:調査区位置図(S=1/5000)



第4図 グリッド配置図 (S=1/3000)



第5図 確認調査トレンチ配置図 (S=1/2000)

A区の調査も進めた。8月末には自然科学分析用のサンプル採取等を行い、最終的に旧状に戻すよう全面を埋め戻した。

整理作業は、発掘調査と平行して現場事務所で一部 実施したのち、埋蔵文化財センターへ持ち帰って作業 を継続した。遺物の水洗・注記・接合・実測は平成15 年度中に終了した。その後、平成16~17年度に報告書 本文等を作成した。

#### 日誌抄

平成13年11月 機材搬入。表土剥ぎ。鋤簾がけ。グリッド 杭設置。土層平面図作成。C区掘削。12月 B区表土剥ぎ。 B区鋤簾がけ。遺物取り上げ。遺物写真撮影。土層平面図 作成。グリッド毎の掘り下げ。季節風対策。平成14年1月 B・C区先行トレンチ掘り。土層毎の等高線作成。重機に よるC区の小林軽石層除去。重機によるC区のクロボク・ アカホヤ除去。出土遺物の取り上げ。 B区VI層面揃えと写 真撮影。VI層面等高線測量。2月 B区グリッドベルト外 し。B区VI層精査。VI層遺物取り上げ。遺構検出及び遺構 配置図作成。重機によるVI層除去。VII層面で揃える。C区 VII層精査。VII層面で揃える。B・C区の鋤簾がけ。VII層面 で空撮。 3月 WI層精査。土坑検出。土坑精査・土坑実測。 B区谷部土層毎の等高線作成。B区Ⅷ層精査。礫群検出。 礫群実測。遺物取り上げ。土層分層・実測、遺構写真撮影。 C区Ⅷ層精查。遺構検出。遺構写真撮影。C区 AT 層(IX 層)除去。C区IX層で礫群検出。重機での除去中止。C区 集石遺構実測・取り上げ。土坑写真撮影。 4月 B区遺構 精査。半截・完掘。グリッド毎の精査。 B区 H5-2 グリッ ドで遺物出土。B区土層毎の等高線測量。B区IX層面で揃 える。Ⅷ層より遺物出土。C区グリッド毎の精査Ⅷ層面遺 構精査。IX層面で揃える。5月 C区XII層まで先行トレン チ掘削。IX層遺物出土状況写真撮影。C区礫群の図面作成。 B区XII層までの先行トレンチ掘削。C区IX層遺物検出。B 区礫群図面作成。C区礫群図面作成。遺物取り上げ。X層 精査。XII層面で揃える。 6月 XII層精査。B区IX層除去。 C区土層断面図作成。土坑完掘。写真撮影。A区表土剥ぎ。 XII層面礫群検出・実測。 C区の調査を終了し、全員B区で の調査に入る。C区土層図作成。I5、I6、J6、J7、K6、 K7、L6、M6グリッドのXII層精査。XII層上面で揃える。 礫群検出。M6グリッドで礫群検出。J5グリッドで礫群検 出。<u>7月</u> XII層精查。I5、I6、J6、K6、L6、M6、 K7、I7、J7、K7グリッド精査。礫群実測図作成。C区 土坑実測図作成。H6、I8、I9、J6、J8、K7、M7グ リッド精査。B区土層図作成。礫群写真撮影。礫の取り上 げ。A区の調査。グリッド杭打ち。8月 A区精査と土層 図作成。B区・C区の土層図作成。B区XII層面で礫群検出。 写真撮影。図面作成及び遺物取り上げ。Ⅷ層等高線測量。 自然科学分析サンプル採取。最終精査。埋め戻し。プレハ ブ撤去。



表土除去直後(平成13年11月)



包含層精査(平成14年2月)



完掘間近(平成14年6月)



埋め戻し (平成14年8月)

## 第1V章 調査の記録

#### 第1節 基本層序

本遺跡の基本層序は、A~C区それぞれの土層堆積 状況を総合して作成した(第6~12図)。

I 層 表 土

現在の耕作土。黒色土で直径 3~5cm の礫が稀に混入する。

Ⅱ 層 黒色十

谷部分等に一部残存する。黒色土でしまり がある。縄文時代後期以降の遺物を含む。

Ⅲ 層 鬼界アカホヤ火山灰 (K-Ah)

橙色。B区では谷部に向かい 20cm 厚で残存。C区では、低所に部分的に残存するのみ。

IV 層 黒褐色土(MB0)

硬質。遺物包含層。

V 層 極暗褐色土 (MB0・ML1の斬移層)

IV層・VI層とは色調差で区別した。やや赤みを帯びる。土質はIV層と近似する。遺物包含層。

VI 層 暗褐色土(ML1)

硬質。粒子は細かい。

▼II a 層 小林軽石を僅かに含む褐色土(Kr-Kb) 硬くしまる。橙色粒子を僅かに含むほか、 白色粒も含む。調査区内の約80%にわたっ て残存する。遺物包含層(旧石器VI期)。

₩ b層 小林軽石を含む硬質褐色土 (Kr-Kb) 硬質。橙色・白色・透色粒を多く含む。乾 燥すると層全体が白みを帯びる。無遺物層。

WIc層 小林軽石を僅かに含む褐色土(Kr-Kb) 硬質。橙色。白色粒を含む。遺物包含層 (旧石器Ⅲ期)。

Ⅷ 層 暗褐色土(MB1)

Ⅷ層に比べ軟質。若干赤みが強い。

IXa層 褐色土 (ML2)

硬質。斑紋がある。鉛色の筋が走る部分も ある。遺物包含層(旧石器Ⅱ期)。 IX b層 褐色土 (ML2)

IX a 層に比べ若干粒子が粗い。斑紋がある。 無遺物層。

Xa層 AT 二次堆積

谷部分にのみ残存。無遺物層。

Xb層 AT 二次堆積

本来と比べ脱色した感がある。谷部分付近に見られる。無遺物層。

XI 層 姶良 Tn 火山灰 (AT)

H9・19グリッドに僅かに残存。

XII 層 硬質暗褐色土 (MB2)

硬質。白色粒を含む。クラックが著しく、 乾燥するとブロック状に壊れる。最下部に 遺物包含層(旧石器 I 期)。

XⅢ 層 硬質褐色土 (MB2)

硬質。他層と比べ、若干赤みを帯びる。

XⅢ層と比べ軟質。

XIV 層 褐色土 (ML3)

粘質あり。無遺物層。

XV 層 霧島アワオコシ (Kr-Aw)

XVI 層 明褐色土

粘性高い。イワオコシ粒を疎らに含む。無 遺物層。

XVI 層 霧島イワオコシ (Kr-Iw)

XIII 層 明黄褐色土

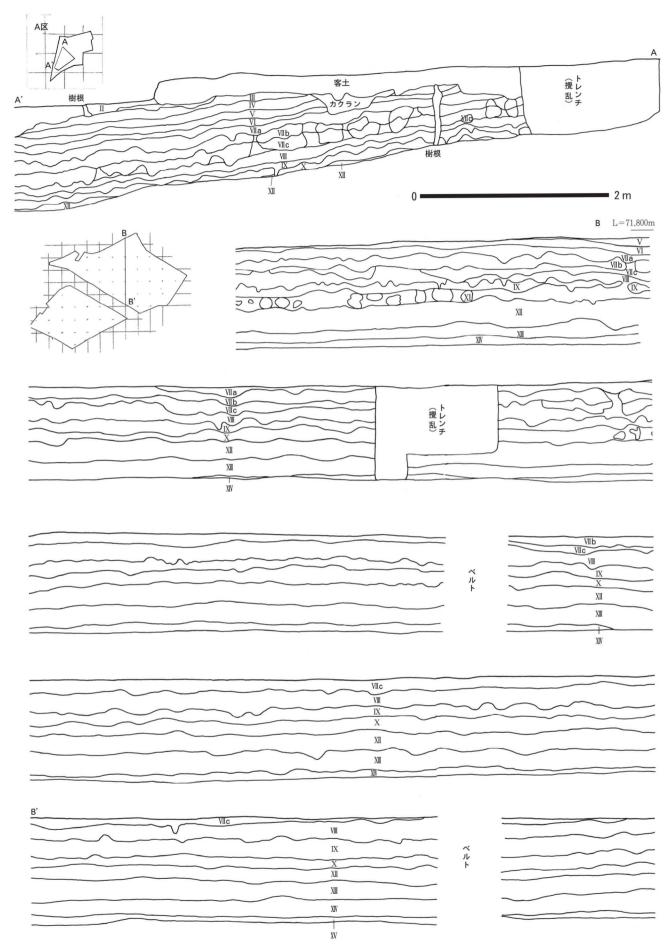
粘性高い。出水あり。無遺物層。

Ⅲ 層 明黄色砂層

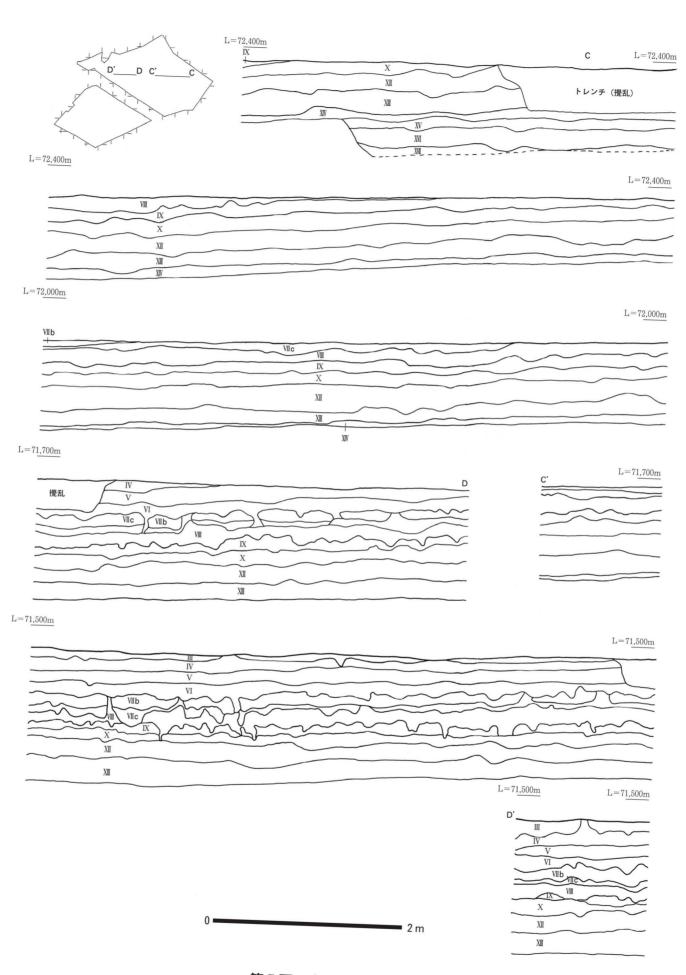
A区で確認。無遺物層。

XX 層礫層

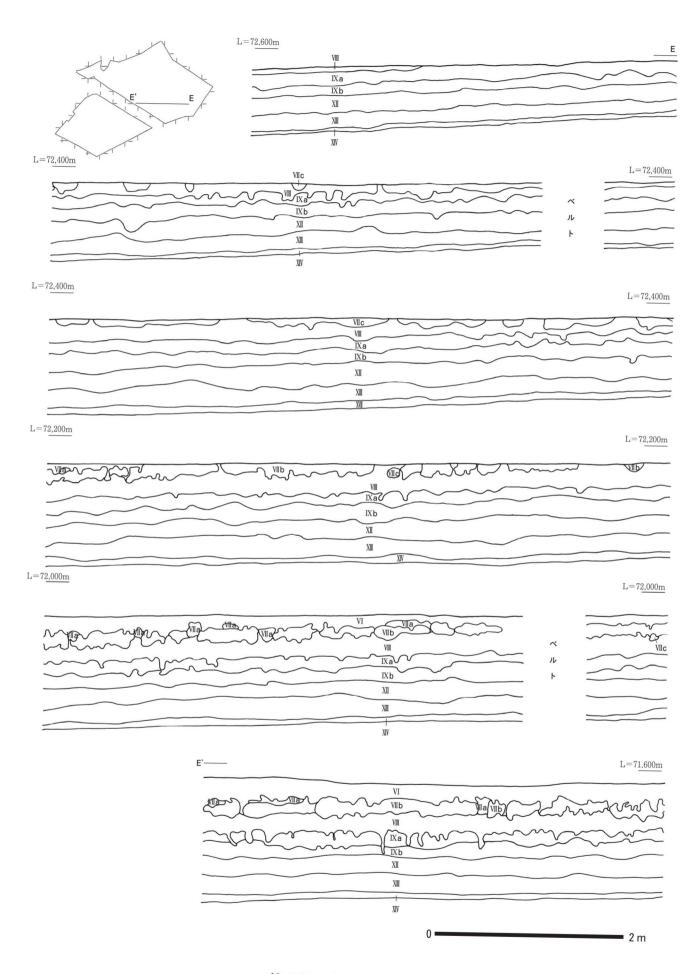
層厚不明(重機で深さ 3mまで掘削)。



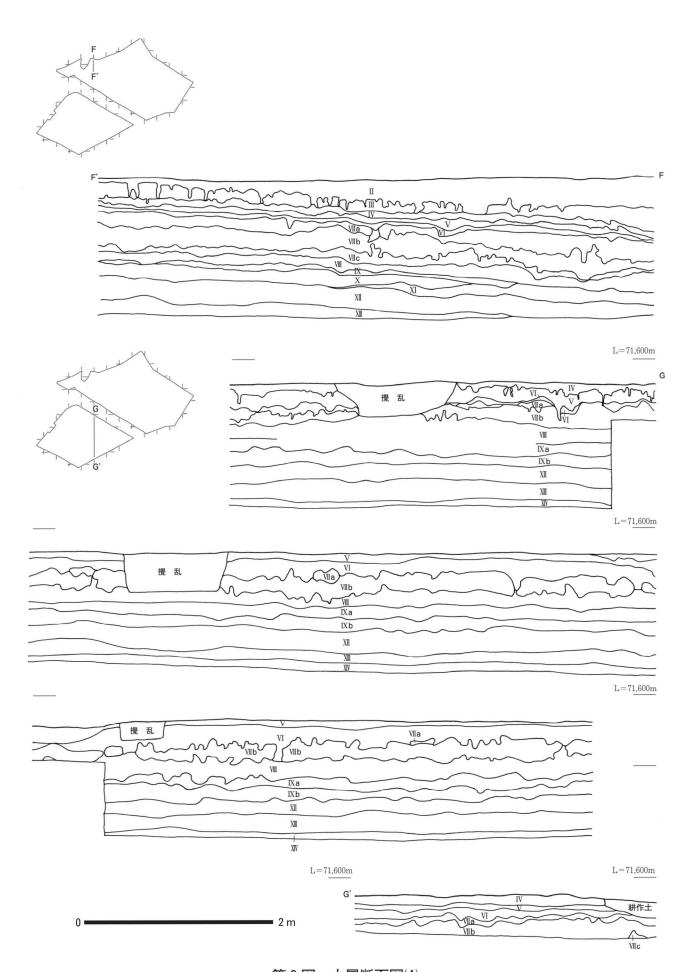
第6図 土層断面図(1)



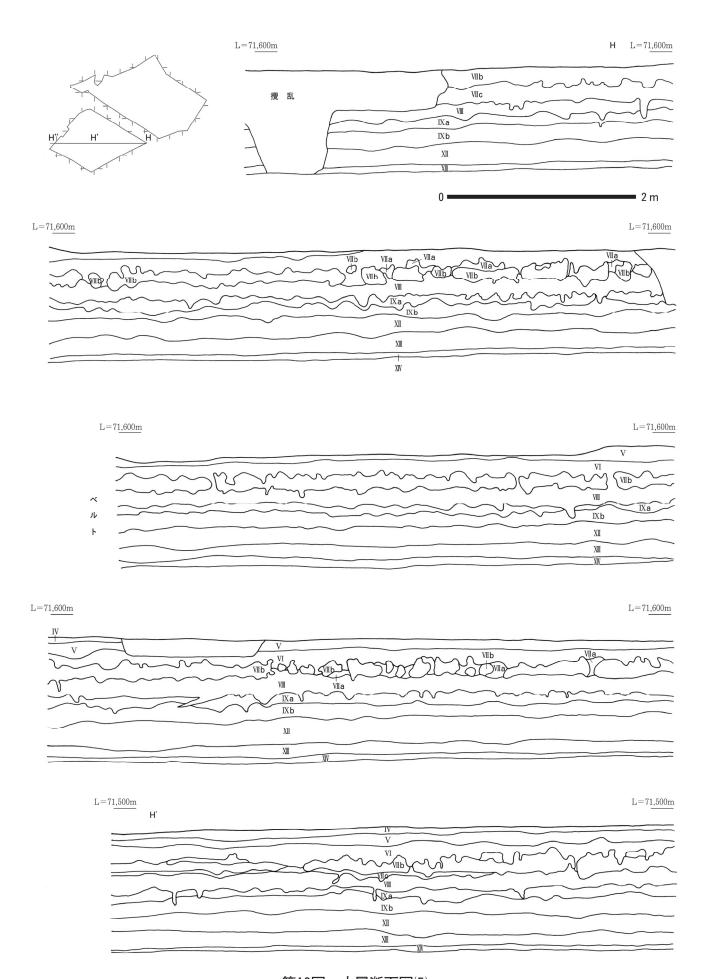
第7図 土層断面図(2)



第8図 土層断面図(3)



第9図 土層断面図(4)



第10図 土層断面図(5)

L=71,400m  $L\!=\!71,\!400m$ H' 攪 乱 VI VIIb VIIa VII IXa IXb XII XII XIV  $L\!=\!71,\!400m$ VI VIIa IXa IXb XII XII **2** m  $L\!=\!7\underline{1,\!400m}$ L=71,400m Щ IV 攪 乱 トレンチ) VI VIIb VIIC XII XII XIV L = 71,400 mL=71,400m VIIb VII IXa IXb XII XII  $L\!=\!7\underline{1,\!400m}$  $L\!=\!7\underline{1,\!400m}$ 攪 乱 (トレンチ) VII b VIA VII b

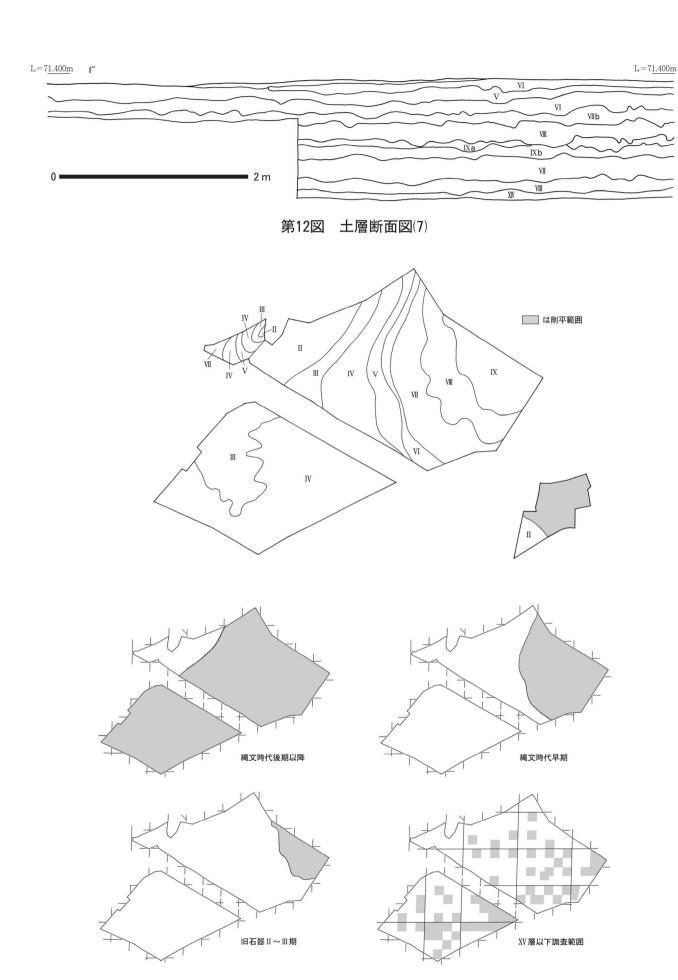
第11図 土層断面図(6)

IXa

XII XIII VIII

IXa IXb

> XIII + XIV



第13図 削平深度状況・調査範囲図

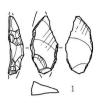
#### 第2節 後期旧石器時代の遺構と遺物

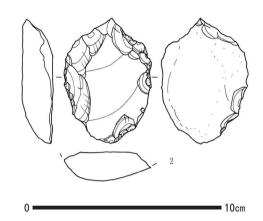
#### 1 A区の調査

#### 旧石器Ⅲ期の遺構・遺物

A区は調査区内の最高所にあたり、旧地形では丘陵 頂部付近に相当する。現在、畑地のB・C区と10m 近い崖に区切られている(第4図)。

遺構・遺物は、旧石器Ⅲ期のみ確認された。内訳はナイフ形石器(第14図1)・二次加工ある剥片1(第14図2)・剥片1ならびに礫10点(砂岩8・頁岩1・ホルンフェルス1)となる。礫は散漫に分布する。いずれも確認調査出土分である。





第14図 A区旧石器Ⅱ~Ⅲ期遺物実測図

#### 2 B·C区の調査

B・C区は農道をはさんで便宜的に設定した区分けであり、復元される旧状としては、南西に緩やかに傾斜するB区と、ほぼ平坦なC区となる。

旧石器時代は、その遺物出土層位や礫群検出面を参考にすると AT 下位に 1 時期(XII層下面)、AT 上位に 3 時期(古い順にIX層下部・WII層下部・WII層下部)にみられる。一方、石器群については、礫群の検出状況等を参照しつつ、石器石材別の分布や接合状況を検討し、AT 上位石器群は上下移動が激しいこと、石器総数・接合資料数は少ないこと、平面分布の上では分離困難と判明した。本来の石器群の単位の抽出は困難であり、報告にあたっては出土層位をまず優先させ、その中で石材を意識しつつ器種別に掲載することとした。解説は旧石器IV期の項に含めた。

#### 2-1 旧石器 I 期の遺構と遺物

礫群5基が検出された(第1表)。検出層位はXII層 下面(MB2下部~MB3上部)であり、分布は、傾 斜面に散漫に広がる。

礫群は直径 3~4 m 規模のものから 7~8 m 規模 のものまでみられる。掘り込みをもつものはない。いずれも礫総数が30点未満と少なく、礫の密集度も低い。 礫石材はすべてホルンフェルスである。

礫群のうち、SI3・SI5については構成礫中に板状 礫が含まれており、それと近接して敲石様の礫(使用 痕が観察できない)が出土した。

石器は剥片・砕片27点であり、その大半はC区から出土した。石材は礫群構成礫に近い頁岩源ホルンフェルスであり、非常に粗くかつ剥片石器には不向きな石質である。石器群は歪かつ大きく湾曲あるいは折れ裂けた剥片のみである。おそらくは目的とする剥片の獲得には至っていないのであろう。一見すると自然礫ともみえたが、接合状況から人為物と判断した。図化はしていない。

#### 2-2 旧石器Ⅱ期の遺構と遺物

IX層下部で礫群1基が検出された。礫群(SI6・第21図、第1表)は、遺跡分布範囲外を重機で掘り下げていた時に発見された。遺跡分布範囲の精査中には礫群等を未確認であり、IV層下部検出の礫群はこの1基のみである。なお、図上部の巨礫は、その周辺に剥片が分布したことから、台石の可能性がある。なお、遺物は先述のように旧石器IV期の項にまとめた。

#### 2-3 旧石器Ⅲ期の遺構と遺物

▼■層下部の礫群は7基あり(SI7~13)、そのうち 5基について掲載した(第21図、第1表)。礫群には 礫分布が散漫なもの・密集するものとがあり、赤化具 合で比較すると前者は赤化礫が少ないあるいはみられ ず、後者は大半が赤化礫である。なお、遺物は先述の ように旧石器IV期の項にまとめた。

#### 2-4 旧石器Ⅳ期の遺構と遺物

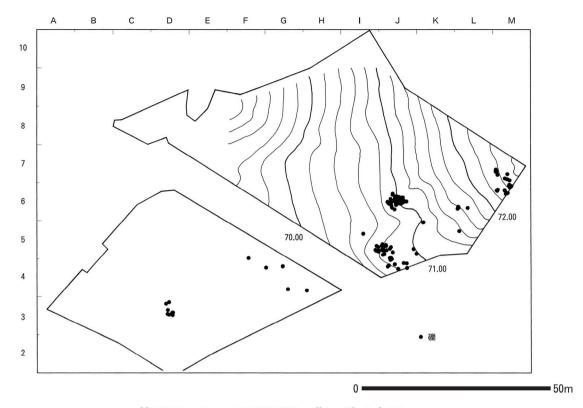
WI層上部の礫群(SI14・第21図中段左)は、浅い掘り込みをもつ点で他礫群と大きく異なっている。浅い掘り込みについては、礫群精査中には判然としていなかったが、礫群断面図を作成する過程で掘り込みを認定するに至った。礫は密集しており、またよく赤化している。

最初に触れたように、旧石器 II ~ IV 期の遺物は分離 困難であった。そこで、出土層位をまず優先させ、そ の中で石材を意識しつつ器種別に掲載する。コンテナ 7箱分の石器が出土し、そのうち48点について掲載し た。掲載石器の内訳は、ナイフ形石器31点・台形石器 2点・角錐状石器 2点・周縁加工石器 1点・掻器 5点 ・二次加工ある剥片 2点・敲石 5点である。このほか、 剥片・砕片・石核がある(第22・23図、第 2 表)。

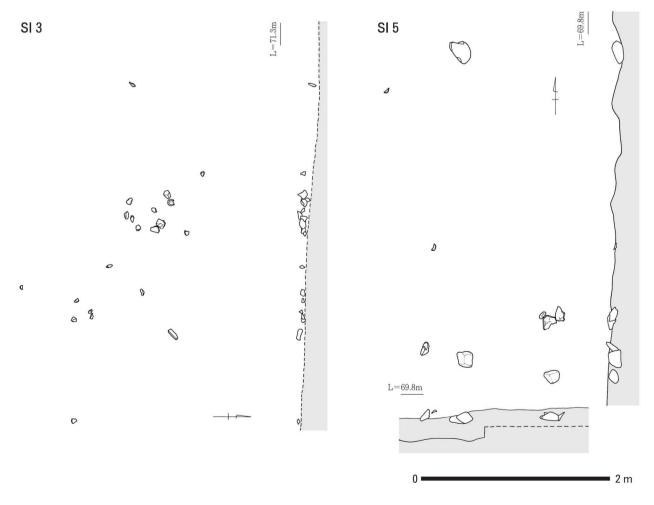
なお、本来の包含層位を大きく離れて、縄文時代早 期遺物と混在して出土した旧石器が少数ある(第28図)。

第1表 旧石器時代礫群一覧表

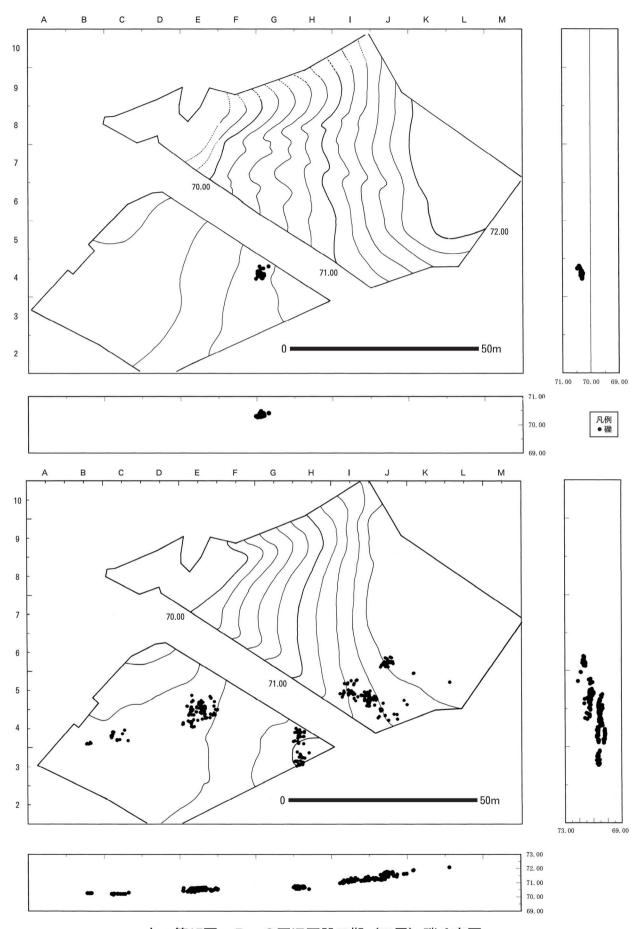
時期	No	位 置	規模	堀り込み	礫総数	礫密度	赤化	石 材
I期	SI 1	M7 XII層下部	4.0m×3.0m	なし	12	散漫	なし	ホルンフェルス
	SI 2	M 6 XII層下部	7.0m×7.0m		18			
	SI 3		5.0m×4.0m		21			
	SI 4	I5 XII層下部	8.0m×8.0m		25			
	SI 5	D3 XII層下部	7.0m×3.0m		9			
Ⅱ期	SI 6	G4 IX層下部	3.4m×1.8m	なし	44	やや密	大半は赤化	大半はホルンフェルス 僅少の尾鈴山酸性岩類
Ⅲ期	SI 7	I 63 VIII層下部	$1.2\text{m}\times0.9\text{m}$	なし	30	密	大半は赤化	石材未記録
	SI 8	H 4 WII層下部	0.6m×1.3m		5	散漫	少量赤化	
	SI 9	H3~H4 VIII層下部	4.8m×2.7m		26			
	SI10	H 4 WII層下部	4.2m×2.9m		31			
	SI11	G 4 VIII層下部	3.0m×1.9m		16		赤化なし	
	SI12	C 4 VIII層下部	3.1m×2.5m		17			
M	SI13	E51 Ⅷ層下部	2.8m×2.0m		16		少量赤化	
IV期	SI14	K5 VII層上部	1.6m×1.9m	ありか	110	密	大半が赤化	石材未記録



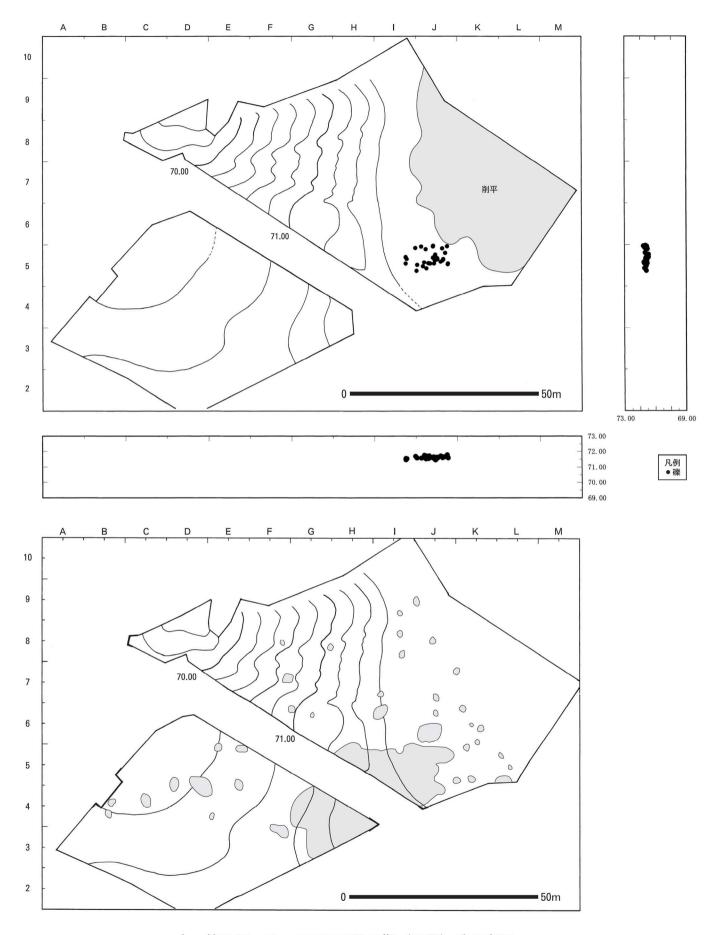
第15図 B·C区旧石器 I 期 礫分布図



第16図 B·C区旧石器 I 期 礫群実測図 (1/40)

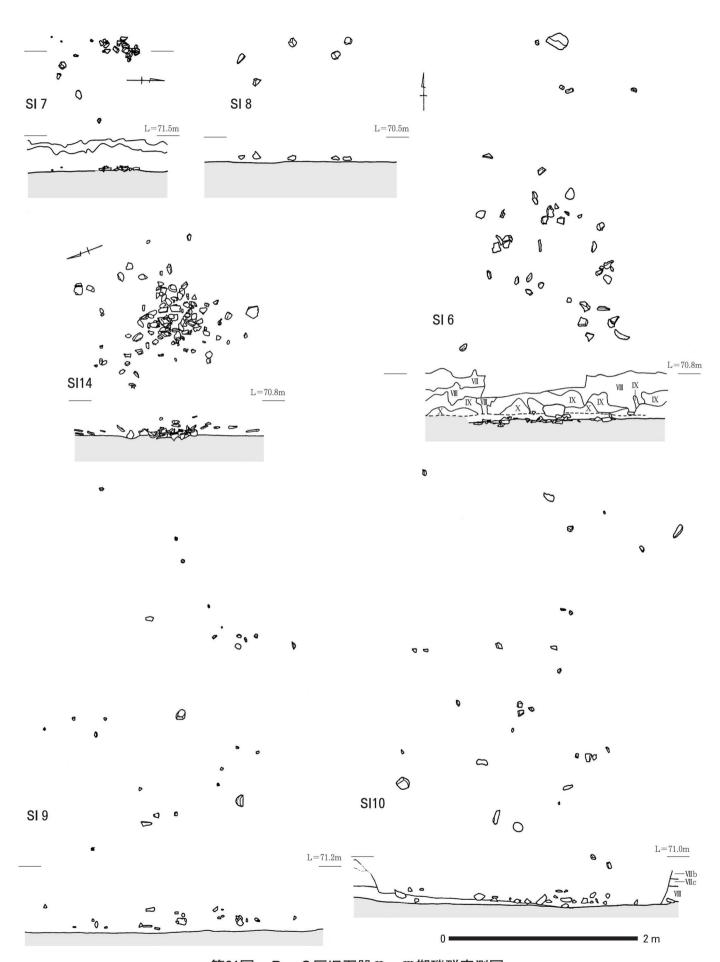


上:第17図 B·C区旧石器Ⅲ期(IX層)礫分布図下:第18図 B·C区旧石器Ⅲ期(VII層)礫分布図

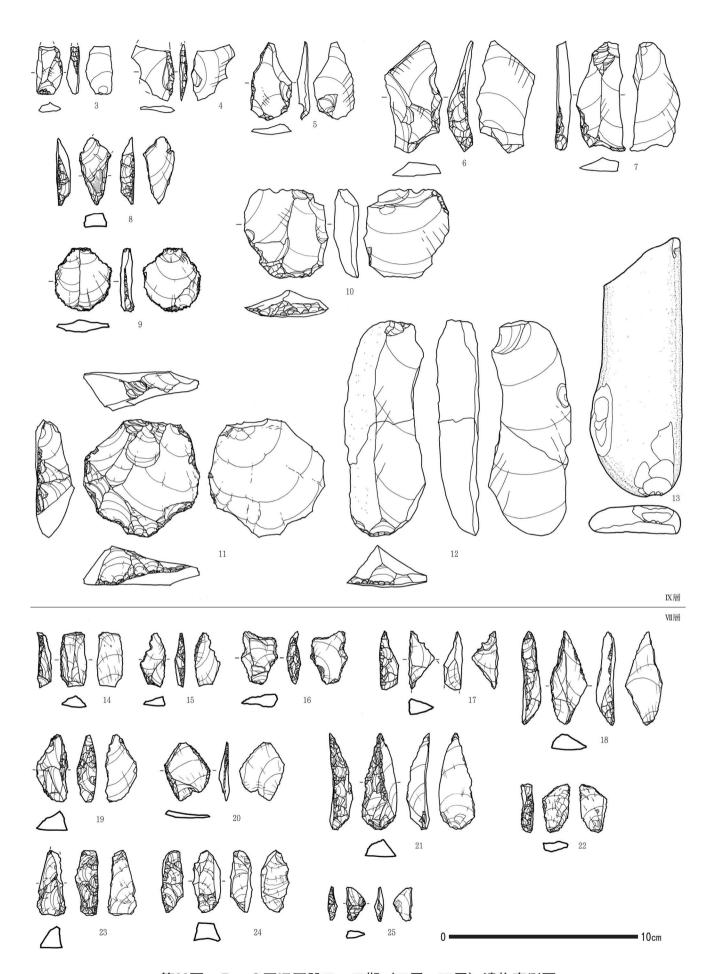


上:第19図 B·C区旧石器IV期(VII層)礫分布図

下:第20図 B·C区旧石器Ⅱ~Ⅲ期(IX~Ⅷ層)遺物分布図



第21図 B·C区旧石器Ⅱ~Ⅲ期礫群実測図



第22図 B·C区旧石器Ⅱ~Ⅲ期(IX層・Ⅵ層)遺物実測図



第23図 B·C区旧石器Ⅱ期(Ⅷ層)遺物実測図

## 第2表 旧石器時代遺物観察表(1)

単位:最大長・最大幅・最大厚=cm/重量g 石材略号:ホルンフェルス=ホルン、桑ノ木津留産黒曜石=桑 Ob、日東産黒曜石=日東 Ob、砂岩

⊠No	Gr	層	取り上げ番号	器 種	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
1	A⊠		8	ナイフ形石器	ホルン	3.1	1.5	0.7	2.6	端正な縦長剥片素材。剥片形状をほとんど修整する ことなく仕上げられ、石器先端側にのみ簡単なブラ ンティングがある。先端を欠く。
2	A⊠		10	二次加工ある 剥片	ホルン	6.6	4.6	1.6	61.8	不定形剥片素材。未製品か。
3	E 54	IX a	1817	ナイフ形石器	ホルン	2.6	1.4	0.7	2.1	端正な縦長剥片素材。剥片形状をほとんど修整する ことなく仕上げられ、石器先端側にのみ簡単なブラ ンティングがある。先端を欠く。
4	J 54	IX a	2102	ナイフ形石器	ホルン	3.0	2.3	0.4	2.0	不定形剥片素材。未製品か。
5	H51	IX a	2070	ナイフ形石器	ホルン	4.1	2.1	0.5	3.8	縦長に近い不定形剥片素材。ブランティングは粗め。
6	G 44	IX a	1765	ナイフ形石器	ホルン	5.9	3.1	1.3	20.5	縦長剥片素材。未製品。
7	H 44	IX a	2183	掻器	ホルン	5.8	2.6	0.8	11.2	縦長剥片素材。剥片末端に刃部を設定し、急角度の 二次加工を施す。
8	G 43	IX b	2258	ナイフ形石器	ホルン	3.5	1.2	0.8	3.4	不定形剥片素材。基部を中心にブランティングを施 す。先端は僅かに欠損する。
9	G 43	IX a	1804	掻器	桑 Ob	3.4	3.0	0.7	5.2	不定形剥片素材。剥片末端に刃部を設定する。
10	G 42	IX b	2294	掻器	ホルン	4.6	4.5	1.3	27.4	不定形剥片素材。剥片末端に刃部を設定する。
11	G 43	IX b	2259	掻器	ホルン	6.2	6.1	2.1	63.4	不定形剥片素材。剥片末端に刃部を設定する。刃部 の加工は他の掻器と比較し粗い。
12	G 42	IX a	1760	掻器	ホルン	11.5	4.4	2.3	113.4	縦長剥片素材。剥片末端に刃部を設定する。背面は 一稜であり、稜左面は礫面である。
13	H 44	IX a		敲石	ホルン	13.8	4.8	1.5	150.2	棒状礫。端部に敲打痕あり。敲打の衝撃によるものか、半壊している。
14	G31	VII b	1045	ナイフ形石器	ホルン	2.9	1.4	0.7	3.1	端正な縦長剥片素材。剥片形状をほとんど修整する ことなく仕上げられる。基部・先端ともに欠損。
15	H42	VII b	2487	ナイフ形石器	ホルン	2.9	1.3	0.5	1.6	縦長剥片素材か。剥片打面部を大きくカットする要 領でブランティングが施される。
16	G 44	VII a	1024	ナイフ形石器	ホルン	2.8	1.9	0.7	2.5	不定形剥片素材。
17	H42	VII b	2429	ナイフ形石器	ホルン	3.1	1.4	0.9	2.7	先端のみ残存。
18	H 42	VII b	2502	ナイフ形石器	ホルン	4.9	2.0	1.0	6.9	縦長剥片素材か。剥片を大きくカットする要領でブ ランティングが施される。
19	E 51	VII b	1015	ナイフ形石器	ホルン	3.6	1.7	1.0	4.3	不定形剥片素材か。
20	I 54	VII b	1471	ナイフ形石器	ホルン	3.1	2.4	0.4	2.2	不定形剥片素材。剥片周縁に細かな二次加工を施す。
21	G 42	VII c	1220	ナイフ形石器	ホルン	5.1	1.8	1.3	9.1	やや厚みある剥片素材。ブランティングは上下両方 向より施される。
22	H42	VII b	2394	ナイフ形石器	日東 Ob	2.6	1.5	0.7	2.1	不定形剥片素材。右側面は礫面。
23	H 3	VII	一括	角錐状石器	日東 Ob	3.4	1.5	1.2	4.9	左側面は稜上より加工。基部・先端ともに欠ける。
24	H42	VII c	1457	角錐状石器	日東 Ob	3.3	1.5	1.2	5.2	厚みある不定形剥片素材。先端は先端方向から欠ける。
25	J 51	VII c	1526	ナイフ形石器	桑 Ob	1.8	1.0	0.5	0.5	小型不定形剥片の末端側を斜断するようにブランティ ングが施される。
26	I 52	VIII	1957	ナイフ形石器	ホルン	1.9	0.9	0.4	0.5	不定形剥片素材。
27	H33	VIII	1589	ナイフ形石器	ホルン	1.9	1.2	0.6	1.2	未製品か。先端欠ける。
28	G61	VIII	1900	ナイフ形石器	ホルン	3.9	1.8	0.8	2.8	縦長に近い不定形刺片の打面側を石器基部に設定。打点 周辺にブランティングを施し、石器基部を作出する。石 器先端側は無修正である。未製品か。

単位:最大長・最大輻・最大厚=cm/重量度 石材略号:ホルンフェルス=ホルン、桑ノ木津留産黒曜石=桑 Ob、日東産黒曜石=日東 Ob、砂岩

⊠No	Gr	層	取り上げ番号	器種	石材	最大長	最大幅	最大厚	重量	A   F   A   C   C   C   C   C   C   C   C   C
			100 to 10			- Court (MC 10)	0 0 House			
29	K 63	VIII	1532	ナイフ形石器	ホルン	3.7	1.7	0.4	1.6	縦長剥片素材。剥片打面側を石器基部に設定。
30	C 41	VIII	1835	ナイフ形石器	ホルン	3.9	1.6	0.7	3.3	端正な縦長剥片素材。剥片形状をほとんど修整することなく基部のみ作出して仕上げられる。先端を欠損。
31	H44	VIII	1683	ナイフ形石器	ホルン	4.2	2.0	0.8	5.7	端正な縦長剥片素材。やや幅広の剥片であったか、左 側縁は基部から先端部までブランティングが施される。
32	H33	VIII	1264	ナイフ形石器	ホルン	2.2	1.2	0.5	0.7	不定形あるいは横長剥片素材。先端を大きく欠損する。
33	I 52	VIII	1989	ナイフ形石器	ホルン	3.3	2.4	0.6	3.6	不定形剥片素材。
34	G 42	VIII	1644	ナイフ形石器	ホルン	3.4	2.3	0.6	2.9	やや歪な縦長剥片素材。未製品か。
35	I 53	VIII	1922	ナイフ形石器	ホルン	3.9	2.3	1.1	7.9	末端に礫面を残す、やや厚手の縦長剥片素材。未製 品か。
36	H33	VIII	1604	ナイフ形石器	ホルン	4.8	2.3	0.9	8.1	縦長剥片の打面部をカットする格好で整形される。
37	H51	VIII	2052	ナイフ形石器	ホルン	4.6	2.6	1.3	12.0	剥片の打面部・末端部をカットし、石器の両側縁と する。
38	I 52	VIII	1969	ナイフ形石器	ホルン	4.2	2.5	1.2	8.6	縦長剥片素材。剥片打面側を石器基部に据え、両側 縁に整形が施され、特に基部裏面には打点のバルブ を除去するかのような加工がある。
39	H44	VIII	1660	ナイフ形石器	ホルン	5.2	3.4	1.1	12.6	やや歪な縦長剥片素材。左側縁の整形加工途中に、 先端部が欠けたため破棄された可能性がある。
40	G 73	VIII	2168	ナイフ形石器	ホルン	6.4	2.1	1.5	16.1	厚みある不定形剥片素材。両側縁とも入念な調整が 施され、特に基部裏面には打点のバルブを除去する かのような加工がある。
41	J 72	VIII	1567	台形石器	日東 Ob	2.7	2.3	1.0	4.4	縦長剥片素材と推定され、剥片打面部・末端を折り 取ることで成形している。最終的に石器左側縁は調 整が施される。
42	I 52	VIII	2551	台形石器	日東 Ob	4.5	2.8	1.4	12.5	厚手の縦長剥片素材か。左側縁は剥片打点部を大き くカットするような調整が施される。右側縁はまず 剥片裏面側に末端から加工した上で、その加工面を 打面に剥片背面側に加工が施される。これにより器 体の厚みを減らしている。
43	D54	VIII	1831	周縁加工石器	桑 Ob	4.2	1.9	0.9	5.7	元々、扁平な原石を利用。原石側面から、槍先形尖 頭器を作り出すような格好で加工が入る。ただし、 剥離は反対側まで抜けるようなものはなく、その多 くはステップ状の剥離に終始している。
44	H 42	VIII	2482	二次加工ある 剥片	日東 Ob	2.7	2.2	0.9	5.1	不定形剥片素材。ナイフ形石器の一部とも見える。 ナイフ形石器であれば、先端・基部ともに欠損する。
45	H 42	VIII	1717	二次加工ある 剥片	日東 Ob	2.4	2.3	1.1	4.2	不定形剥片素材。ナイフ形石器等の未製品の可能性 もある。
46	J 54	VIII	一括	ナイフ形石器	日東 Ob	2.8	2.2	1.2	4.8	不定形剥片素材。ナイフ形石器等の未製品の可能性 もある。
47	H 42	VIII	2542	敲石	ホルン	8.9	5.3	4.1	227.0	上下両端に敲打痕あり。
48	H51	VIII	2068	敲石	ホルン	7.6	5.0	4.2	192.5	突出部が 5 箇所あるやや歪な礫で、突出部のうち 3 箇所に敲打痕がある。
49	H 42	VIII	2543	敲石	砂岩	7.1	5.8	3.9	192.5	上下両端に敲打痕あり。下端は特に敲打痕が凹面と なる。
50	J 54	VIII	2024	敲石	砂岩	13.7	4.6	2.5	252.8	棒状礫。端部に敲打痕あり。敲打の衝撃によるもの か、両端とも剥落している。
-										

#### 第3節 縄文時代早期の遺構と遺物

縄文時代早期の遺構・遺物はIV~VI層で確認された。

#### 1 遺 構

縄文時代早期の遺構には散礫と土坑(陥し穴状遺構) がある。

#### (1) 散 礫

礫はVI層(ML1)残存範囲の全体から散漫に検出されたが、その中でも特に密集していた箇所を図化した(第25図)。礫の集中度は一般的な集石遺構に比べ散漫である。周辺の微地形について特記されることはなく、炭化物等もみられない。礫石材は砂岩・ホルンフェルスが大半を占めており、半数ほどが著しく赤化する。

#### (2) 土 坑(陥し穴状遺構)

土坑は5基確認された。各土坑の規模・平面形等は 第3表に一覧しており、その特徴から一般に陥し穴状 遺構とされるものと同種である。

陥し穴状遺構の検出は、VI層(ML1)上部付近より不自然な黒色土がぼんやり確認されはじめ、Kr-Kb面まで掘り下げてはじめて、プランが明確になった。

陥し穴状遺構は、平面形が円形のもの( $SC1 \sim 3$ ・5)、長方形のもの(SC4)に分かれる。後者には一般に杭痕とされる底面小穴がみられ、底面小穴は、底面から  $5 \sim 7$  cm 前後の深さがあり、南寄り・北寄りの二群に分かれる印象がある。

陥し穴状遺構の埋土はいずれも黒褐色土・暗褐色土を基調とし、自然埋没である。壁際や底付近に壁崩落土(地山ブロック)を多く含む場合がある。遺物の出土はない。なお、SC1・2・4のように、検出面で不正形な楕円・長楕円形であるのに対し底面になると円形・長方形になるものは、本来円形・長方形に掘り込まれたものが、埋没過程等において肩等が崩落したものと推定される。

#### 2 遺物

#### (1) 土 器

図化可能なのは深鉢1点のみである(第28図)。貝 殻条痕文である。

この他は細片化が進んでおり、図化に耐えない。胎 十等の特徴からは2~3個体が予想される。

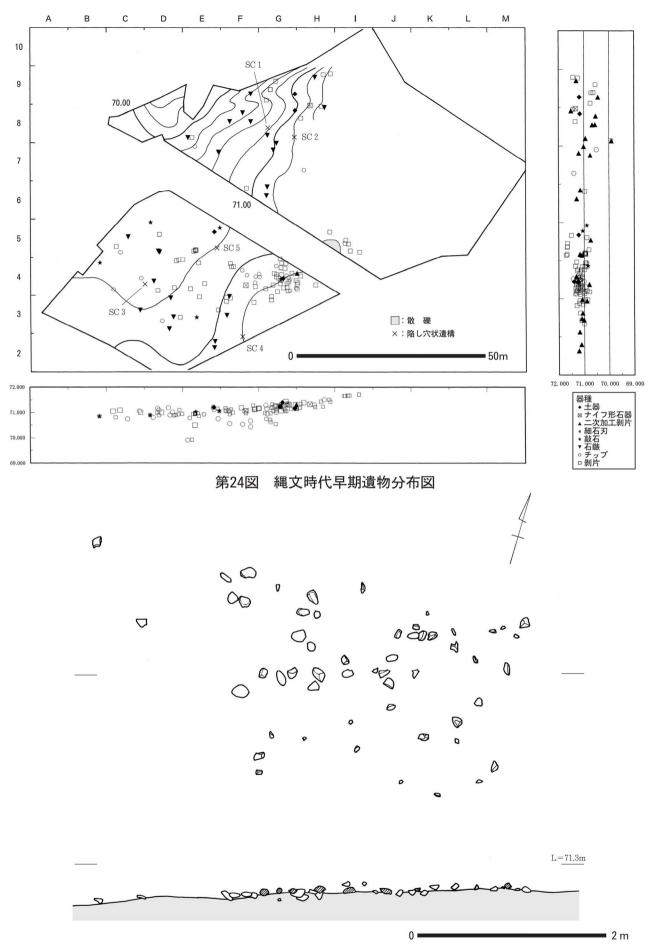
#### (2) 石 器

調査中より、打製石鏃の形態・石材等の変遷が追えまいかと考え、層位別に掲載することとした。第28図 $51\sim68$ はIV層、 $69\sim71$ はV層、 $72\sim74$ はVI層出土である。特記される点として、全層をとおしてチャート製が一般的であること、IV層に表裏面の大部分が研磨された打製石鏃があること、VI層から玉髄(石英)( $57\sim58$ )、姫島産 Ob( $63\sim64$ )、腰岳産 Ob(65)製打製石鏃がみられること等が挙げられる。

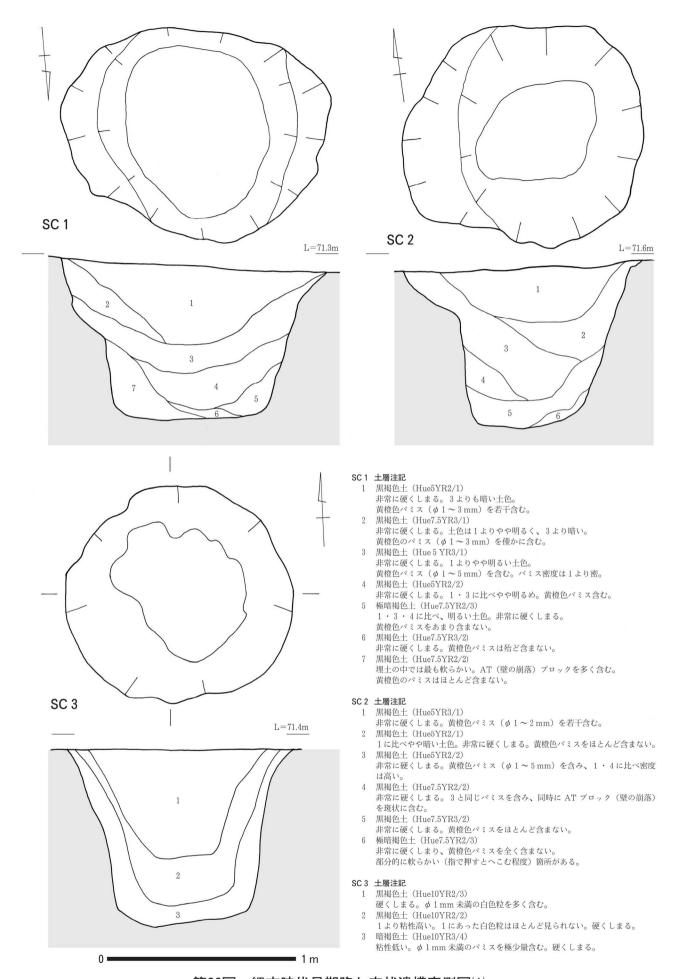
なお、第28図75~79は、原位置を大きく遊離して縄 文包含層中へ混入した旧石器資料である。75・76はナイフ形石器、77は細石刃である。とくに後者は、本遺 跡唯一の細石刃石器群である。78は錐か。79は桑ノ木 津留産の黒曜石原石である。

第3表 縄文時代早期の陥し穴一覧表

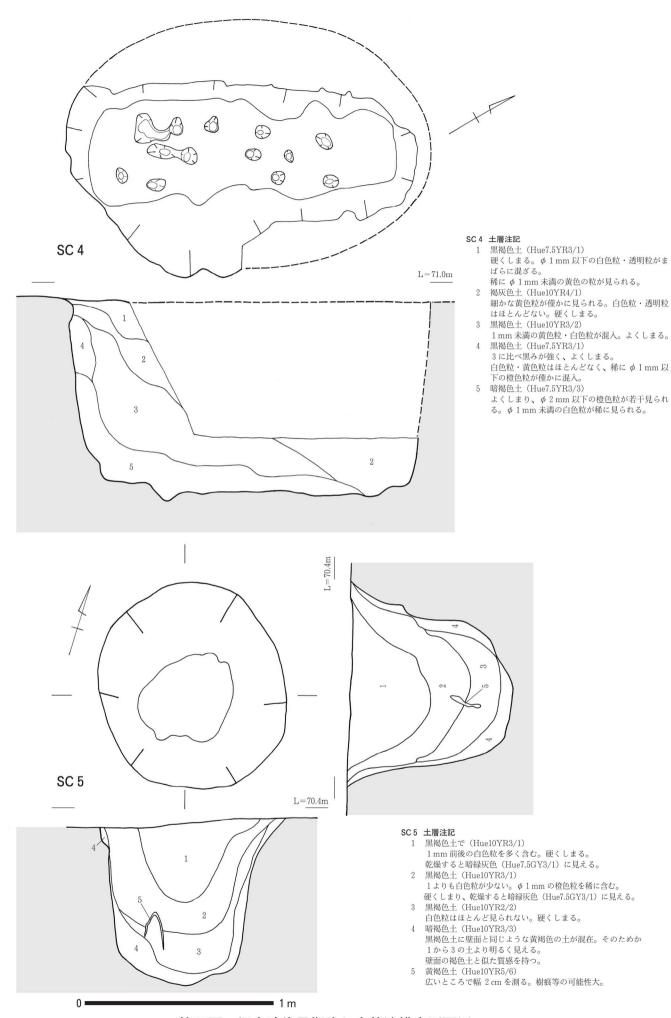
No	検出規模:単位m (長×短×深)	平 面 形 (検出/底)	備考
SC 1	$1.43 \times 1.15 \times 0.85$	楕 円/ 円	
SC 2	$1.27 \times 1.18 \times 0.90$	楕 円/ 円	
SC 3	$1.20 \times 1.15 \times 0.94$	円 / 円	
SC 4	$1.93 \times 1.37 \times 1.00$	長楕円/長方形	底小穴12
SC 5	$1.10 \times 1.00 \times 0.87$	円 / 円	



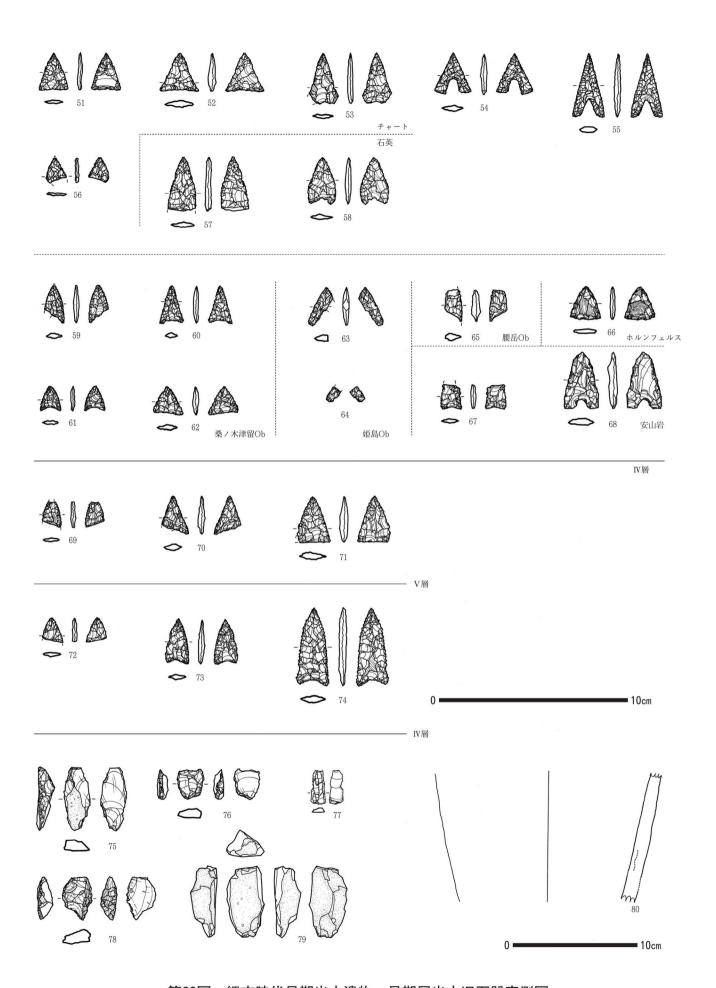
第25図 縄文時代早期散礫実測図 (1/20)



第26図 縄文時代早期陥し穴状遺構実測図(1)



第27図 縄文時代早期陥し穴状遺構実測図(2)



第28図 縄文時代早期出土遺物・早期層出土旧石器実測図

#### 第4表 縄文時代早期遺物観察表

単位:最大長・最大幅・最大厚=cm/重量g 石材略号:ホルンフェルス=ホルン、桑ノ木津留産黒曜石=桑Ob

⊠No	Gr	層	取り上げ番号	器 種	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
51	F 83	IV	193	打製石鏃	チャート	2.0	1.5	0.3	0.5	
52	E 71	IV	191	打製石鏃	チャート	2.0	2.1	0.5	0.8	
53	D44	IV	155	打製石鏃	チャート	2.7	1.6	0.3	0.9	
54	C 31	IV	113	打製石鏃	チャート	2.2	1.9	0.4	0.5	
55	H93	IV	219	打製石鏃	チャート	3.4	1.7	0.4	1.2	
56	D32	IV	151	打製石鏃	チャート	1.3	1.1	0.2	0.2	
57	E 21	IV	117	打製石鏃	石英 (玉髄)	2.9	1.5	0.4	1.1	
58	G 73	IV	209	打製石鏃	石英 (玉髄)	2.5	1.5	0.3	0.8	
59	F 33	IV	143	打製石鏃	桑 Ob	2.0	1.0	0.3	0.4	
60	C 51	IV	108	打製石鏃	桑 Ob	2.0	1.3	0.3	0.4	
61	H81	IV	213	打製石鏃	桑 Ob	1.8	1.1	0.3	0.2	
62	D32	IV	152	打製石鏃	桑 Ob	1.5	1.6	0.4	0.5	
63	D 54	IV	103	打製石鏃	姫島 Ob	2.0	1.3	0.4	0.4	
64	D54	IV	185	打製石鏃	姫島 Ob	0.8	0.8	0.3	0.1	
65	F 81	IV	210	打製石鏃	腰岳 Ob	1.7	0.9	0.5	0.5	
66	F 34	IV	161	半磨製石鏃	ホルン	1.6	1.7	0.3	0.6	
67	D31	IV	114	打製石鏃	安山岩	1.3	1.1	0.3	0.4	
68	F 92	IV	206	打製石鏃	安山岩	3.0	1.8	0.5	2.0	
69	F 81	V	208	打製石鏃	チャート	1.4	1.0	0.3	0.3	
70	G 63	V	211	打製石鏃	赤チャート	2.0	1.4	0.4	0.6	
71	G 63	V	212	打製石鏃	チャート	2.4	1.7	0.5	1.4	
72	E 84	IV	252	打製石鏃	チャート	1.3	1.1	0.3	0.3	
73	G84	IV	234	打製石鏃	チャート	2.4	1.2	0.4	0.8	
74	G 73	IV	232	部分磨製石鏃	ホルン	4.1	1.7	0.4	2.4	
75	H83	V	229	ナイフ形石器	ホルン	3.3	1.4	1.0	3.6	縦長剥片を斜断する格好でブランティングされる。 全体に緩く稜が摩滅する。
76	G 42	IV	251	ナイフ形石器	ホルン	1.6	1.4	0.6	1.4	縦長剥片素材。基部を入念に造り出すもので、素材 剥片の打面も残っている。
77	シクツ	ν 	163	細石刃	淀姫 Ob	1.8	0.8	0.5	0.4	風化が進む。ガジリから石材を特定した。
78	G 71	IV	182	石錐	桑 Ob	2.3	1.6	0.8	2.1	貝殻状の不定形剥片素材。剥片打面を大きくカット し、末端側からも大きく一発の加工を入れることで、 錐部を作出する。
79	Т31	IV		原石	桑 Ob	3.8	2.5	1.4	8.6	角柱状の小形原石。柱状に立てて上から見た場合、 断面三角形となる。細石刃あるいは小剥片用。
80	G81		207	縄文土器	-					

#### 第4節 縄文時代後期の遺構と遺物

#### 1 遺 構

該期の包含層はその大半が畑地耕作等によりすでに 削平されている。そのような中、土坑1基(SC6) が検出された。前節で報告した縄文時代早期の土坑と 比較しあきらかに異なる埋土であったため、調査中よ り異時期のものと認識して調査を進めた。調査区内に、 これと同様の埋土をもつ遺構は確認されなかった。

#### (1) 土 坑(陥し穴状遺構)

土坑(SC 6)は、本来の掘り込み面が削平により明確でない。土坑の平面形は検出面長楕円形、底面で隅丸方形、断面U字~台形である。規模は直径1.50m、短径1.16m、残深0.74mとなる。埋土は黒褐色土を基調とし、全体にしまりに欠け軟らかい。埋土断面の観察からは、壁面の崩壊土等を含みつつ自然埋没したと推定される。遺物の出土はない。

なお、埋土中位にあたる 3 層・5 層中より炭化物等を採取し、年代測定に提供した結果、前者は  $5,220\pm40$ 年 BP、後者は  $3,420\pm50$ 年 BP(補正  $^{14}$ C 年代)となった。

これらの点から、土坑は縄文時代後期の陥し穴状遺 構と推定される。

#### 2 遺物

E8グリッドを中心に、クロボク土中から縄文時代 後期の小片約30 (第29図82・83)・ホルンフェルス製 の二次加工ある剥片1 (第29図85)・石核 (第29図84) ・打製石斧 (第29図86) が出土した。遺物分布は、土 坑 (陥し穴状遺構) の分布からは大きく隔たっており、 直接に関係するものとは考えにくい。

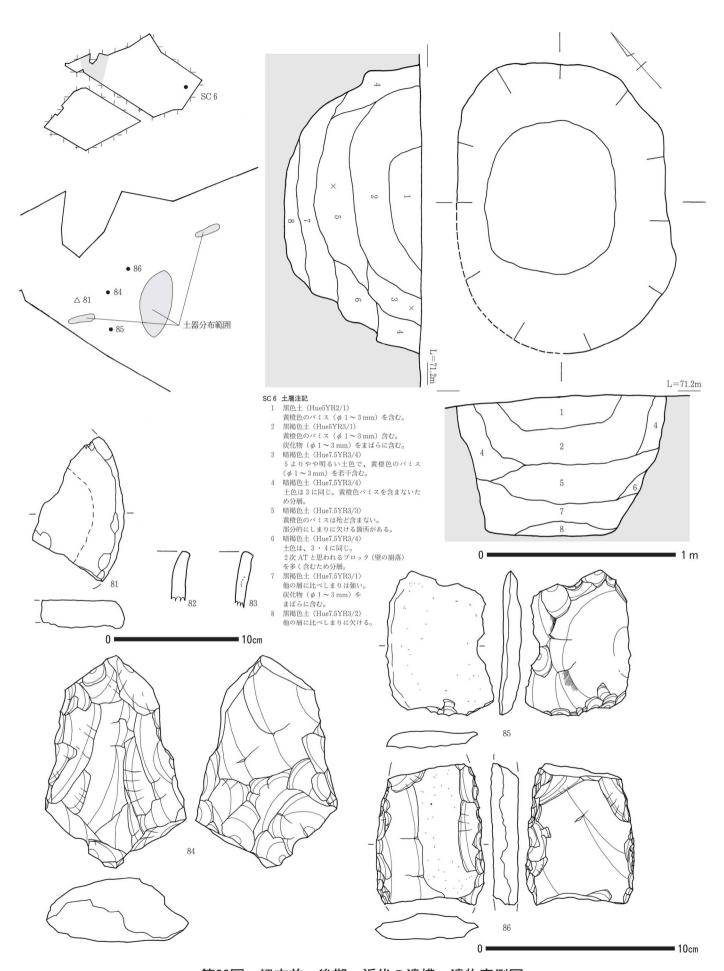
#### 第5節 近世以降の遺物

表土とⅡ層の境目付近より焼き台1点が出土した (第29図81)。平面分布図でみると、第4節でみた縄文 時代遺物の分布と重複している。その由来等明確にし えないが、付近に窯が点在した可能性あるいは客土中 に偶然混入していた可能性等が想定される。

第5表 縄文時代後期・近世以降遺物観察表

単位:最大長・最大幅・最大厚=cm/重量g 石材略号:ホルンフェルス=ホルン

⊠No	Gr	層	取り上げ番号	器 種	石 材	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
81	D82	I	134	焼き台		7.7	4.9	1.6	62.5	破砕している。表面に付着物あり。
82	E 82	П	128	土器						口禄。
83	E 82	П	124	土器						□縁。
84	E 83	Π	133	石核	ホルン	11.3	7.5	3.4	290.8	不定形剥片を剥離。
85	E 73	П	127	二次加工ある 剥片	ホルン	7.7	5.7	0.9	59.4	礫面残す剥片素材。裏面に簡単な加工あり。
86	E 82	П	132	打製石斧	ホルン	7.5	5.6	1.5	91.6	基部・刃部ともに欠損。



第29図 縄文前・後期~近代の遺構・遺物実測図

## 第 \ 章 自然科学分析

#### 第1節 SC6の埋土・炭化物の放射性炭素年代測定

#### 1. 試料と方法

試料名	地点・層準	種 類	前処理·調整	測 定 法
No. 1	SC6、3層	堆積土壌	酸洗浄、石墨調整	加速器質量分析(AMS)法
No. 2	SC6、5層	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄、石墨調整	加速器質量分析(AMS)法

#### 2. 測定結果

試料名	<sup>14</sup> C 年代 (年 BP)	δ <sup>13</sup> C (‰)	補正 <sup>14</sup> C 年代 (年 BP)	曆年代(西曆)	測定No. (Beta-)
No. 1	5210±40	-24.1	$5220 \pm 40$	交点:cal BC 3990 1 σ:cal BC 4040~3980 2 σ:cal BC 4060~3960	171997
No. 2	3420±50	-29.2	3350±50	交点:cal BC 1630 1 σ:cal BC 1690~1540 2 σ:cal BC 1750~1520	171998

#### 1) <sup>14</sup>C 年代測定値

試料の  $^{14}$ C/ $^{12}$ C 比から、単純に現在(1950年 AD)から何年前かを計算した値。 $^{14}$ C の半減期は、国際的慣例により Libby の5,568年を用いた。

#### 2) δ 13C 測定値

試料の測定  $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$  比を補正するための炭素安定同位体比 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。

#### 3) 補正 14C 年代値

 $\delta$  <sup>13</sup>C 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}$ C/ $^{12}$ C の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

#### 4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中  $^{14}$ C 濃度の変動を較正することにより算出した年代 (西暦)。較正には、年代既知の樹木年輪の  $^{14}$ C の詳細な測定値、およびサンゴの U-Th 年代と  $^{14}$ C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベースでは、約19,000年 BP までの換算が可能となっている。

暦年代の交点とは、補正  $^{14}$ C 年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。 $1\sigma$  (68%確率) と  $2\sigma$  (95%確率) は、補正  $^{14}$ C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記さ

れる場合や、複数の  $1\sigma \cdot 2\sigma$  値が表記される場合もある。

#### 文 献

Stuiver, M., et. al., (1998), INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, Radiocarbon, 40, p.1041-1083. 中村俊夫 (1999) 放射性炭素法. 考古学のための年代測定学入門. 古今書院, p.1-36.

# 第2節 F8・L8地点の植物珪酸体分析 1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸(SiO 2)が蓄積したものであり、植物が枯れたあともガラス質の微化石(プラント・オパール)となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている(杉山、2000)。

#### 2. 試 料

分析試料は、F8地点およびL8地点から採取された計21点である。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

#### 3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原、1976)をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約 1gに直径約 40μmのガラスビーズを 約 0.02g 添加(電子分析天秤により 0.1mgの 精度で秤量)
- 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射 (300W・42KHz・10分間) に よる分散
- 5) 沈底法による 20μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
- 7)検鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1 g あたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1 g 中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比 重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの 植物体乾重、単位:10<sup>-5</sup>g)をかけて、単位面積で層 厚 1 cm あたりの植物体生産量を算出した。ススキ属 (ススキ) の換算係数は1.24、メダケ節は1.16、ネザ サ節は0.48、クマザサ属(チシマザサ節・チマキザサ節)は0.75、ミヤコザサ節は0.30である。タケ亜科に ついては、植物体生産量の推定値から各分類群の比率 を求めた。

#### 4. 分析結果

#### (1) 分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第6表および第30図、第31図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。なお、イネ科栽培植物(イネ、ムギ類、ヒエ、アワ、キビなど)および照葉樹(アカガシ亜属、シイ属、クスノキ科、マンサク科など)に由来する植物珪酸体は、いずれの試料からも検出されなかった。

#### [イネ科]

キビ族型、ヨシ属、ススキ属型 (おもにススキ属)、 ウシクサ族 A (チガヤ属など)、ウシクサ族 B (大型)、シバ属、Bタイプ、Cタイプ

#### [イネ科―タケ亜科]

メダケ節型 (メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザサ節型 (おもにメダケ属ネザサ節)、クマザサ属型 (チシマザサ節やチマキザサ節など)、ミヤコザサ節型 (おもにクマザサ属ミヤコザサ節)、未分類等

#### 〔イネ科―その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由 来)、未分類等

#### [樹木]

多角形板状 (ブナ科コナラ属など)、その他

#### (2) 植物珪酸体の検出状況

#### 1) F 8地点

K-Ah 層準のⅢ層(試料 1)から Kr-Aw 直上の Ⅲ層(試料 17)までの層準について分析を行った。そ の結果、Ⅷ層(試料 15~17)から XII層(試料 13、14) にかけては、ミヤコザサ節型が比較的多く検出され、 キビ族型、ススキ属型、ウシクサ族 A、シバ属、イネ 科Bタイプ、イネ科Cタイプなども検出された。AT 混のX層(試料12)からIX層(試料11)にかけては、 ミヤコザサ節型がやや増加しており、シバ属、イネ科 Bタイプ、イネ科Cタイプは見られなくなっている。 WⅢ層 (試料10) から Kr-Kb 混のWIb層 (試料 8) に かけては、ミヤコザサ節型が大幅に増加しており、ス スキ属型は見られなくなっている。VI層(試料 6、7) では、ネザサ節型やクマザサ属型がやや増加しており、 ミヤコザサ節型は減少している。V層(試料4、5) では、ネザサ節型が大幅に増加しており、ススキ属型 やメダケ節型も増加している。K-Ah 直下のⅣ層 (試料2、3)では、メダケ節型やネザサ節型が大幅 に増加しており、ミヤコザサ節型は減少している。K -Ah 層準のⅢ層(試料1)では、ほとんどの分類群 が大幅に減少している。おもな分類群の推定生産量に よると、XII層より下位ではおおむねススキ属型やミヤ コザサ節型、X層からWb層にかけてはミヤコザサ節、 V層からIV層にかけてはメダケ属(メダケ節やネザサ 節) が優勢であることが分かる。

#### 2) L 8地点

Kr-Aw 直上のXW層(試料 9)と直下のXW層(試料  $10\sim12$ )について分析を行った。その結果、XW層(試料  $10\sim12$ )ではミヤコザサ節型が比較的多く検出され、キビ族型、ススキ属型、ウシクサ族 A、シバ属、イネ科 B タイプ、イネ科 C タイプ、ネザサ節型、クマザサ属型なども検出された。XW層(試料 9)では、ほとんどの各分類群が減少している。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねミヤコザサ節型が優勢であることが分かる。

#### 5. 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

霧島アワオコシスコリア(Kr-Aw)直下のM層から姶良 Tn 火山灰(AT、約2.4~2.5万年前)直下のM層にかけては、おおむねクマザサ属(おもにミヤコザサ節)などのササ類を主体としてススキ属やチガヤ属、キビ族、シバ属なども見られるイネ科植生であったと考えられ、M層の時期にはネザサ節なども見られたと推定される。

クマザサ属は森林の林床でも生育が可能であるが、

ススキ属やチガヤ属、キビ族、シバ属などは日当りの 悪い林床では生育が困難である。このことから、当時 の遺跡周辺は森林で覆われたような状況ではなく、比 較的開かれた環境であったと推定される。なお、キビ 族にはヒエ属やエノコログサ属に近似したものが含ま れており、これらの植物が何らかの形で利用されてい た可能性も示唆される。これらの可食植物の利用につ いては、考古学的所見ともあわせて慎重に検討してい く必要がある。

その後、AT の堆積によって当時の植生は一時的に破壊されたと考えられるが、ススキ属やチガヤ属、クマザサ属(おもにミヤコザサ節)などは、比較的早い時期に再生したと推定される。WII層から霧島小林軽石(Kr-Kb、約1.4~1.6万年前)混のVII b 層にかけては、クマザサ属(おもにミヤコザサ節)などのササ類が繁茂する状況であったと推定される。

タケ亜科のうち、メダケ属は温暖、クマザサ属は寒冷の指標とされており、メダケ率(両者の推定生産量の比率)の変遷は、地球規模の氷期-間氷期サイクルの変動とよく一致することが知られている(杉山・早田、1996、杉山、2001)。また、クマザサ属のうちチシマザサ節やチマキザサ節は積雪に対する適応性が高いとされ、ミヤコザサ節は太平洋側の積雪の少ないところに分布している(室井、1960、鈴木、1978)。これらのことから、WII層から Kr-Kb 混のWI b層にかけては、積雪の少ない比較的寒冷で乾燥した環境であったと推定される。この寒冷期は、最終氷期の最寒冷期(酸素同位体ステージ2)に対比されると考えられる。

クマザサ属は氷点下5℃程度でも光合成活動をしており、雪の中でも緑を保っていることから、大半の植物が落葉または枯死する秋から冬にかけてはシカなどの草食動物の重要な食物となっている(高槻、1992)。遺跡周辺にこれらのササ類が豊富に存在したことは、当時の動物相を考える上でも重要である。

その後、V層の時期には、メダケ属(メダケ節やネザサ節)を主体としてススキ属やチガヤ属、キビ族なども見られる草原植生に移行したと考えられ、鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah、約6,300年前)直下のIV層ではメダケ属などが繁茂する状況であったと推定される。これらのイネ科植物は陽当たりの悪い林床では生育が

困難であり、ススキ属やチガヤ属の草原が維持されるためには定期的な刈り取りや火入れ(焼き払い)が必要である(堀田、1991、近藤、1995)。したがって、このような植生変化は、後氷期における気候温暖化の影響に加えて、森林伐採や火入れなど人間による植生干渉の増加を示していると考えられる。

#### 文 献

近藤錬三 (1995) 日本における植物珪酸体研究とその応用. 近藤祐 弘教授退官記念論文集刊行会: p. 31-56.

杉山真二・早田勉 (1996) 植物珪酸体分析による宮城県高森遺跡と その周辺の古環境推定―中期更新世以降の氷期―間氷期サイクルの 検討―. 日本第四紀学会 講演要旨集, 26, p. 68-69.

杉山真二 (1999) 植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達 史. 第四紀研究. 38(2), p. 109-123.

杉山真二 (2000) 植物珪酸体 (プラント・オパール). 考古学と植物学. 同成社, p. 189-213.

杉山真二 (2001) テフラと植物珪酸体分析. 月刊地球, 23, p. 645-650.

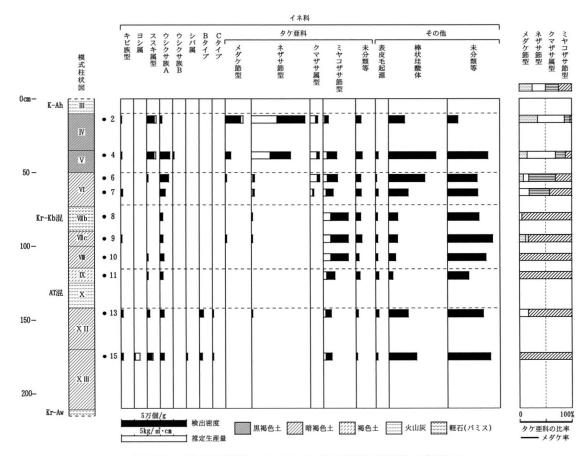
鈴木貞雄(1978)タケ科植物の概説. 日本タケ科植物総目録. 学習研究社. 25-45.

高槻成紀(1992)北に生きるシカたち―シカ、ササそして雪をめぐる生態学―. どうぶつ社.

藤原宏志 (1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—. 考古学と自然科学, 9, p. 15-29.

堀田満(1991)日本列島の植物. カラー自然ガイドⅡ, 保育社:p. 68-69.

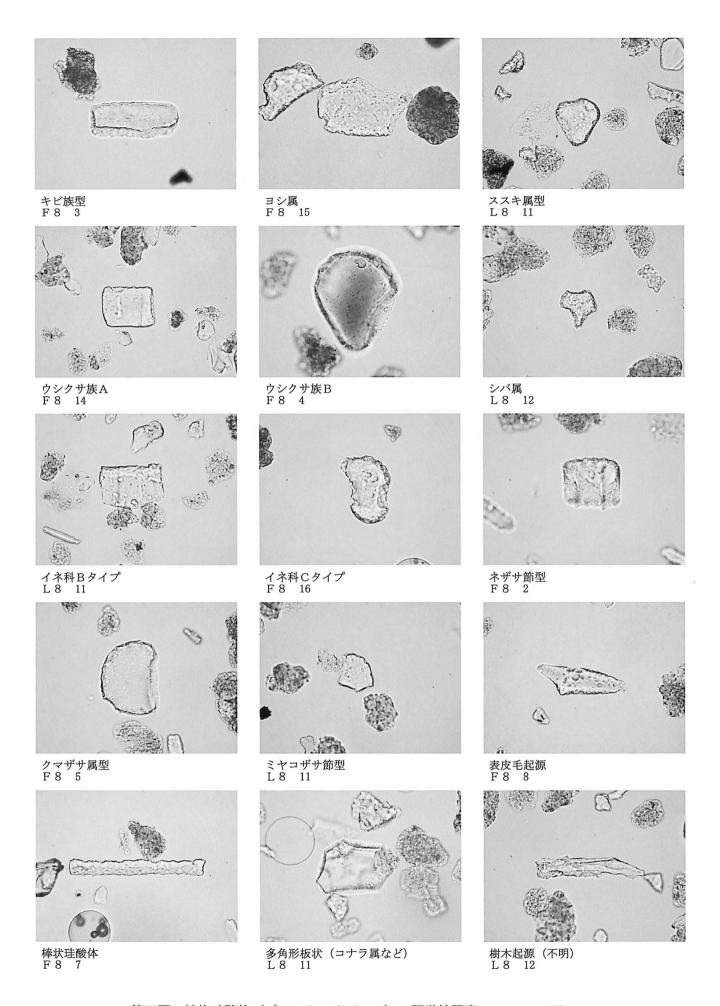
室井綽 (1960) 竹笹の生態を中心とした分布. 富士竹類植物園報告, 5, p. 103-121.



第30図 尾小原遺跡、F8における植物珪酸体分析結果

#### 第6表 宮崎県、尾小原遺跡における植物珪酸体分析結果

	地点・試料					F 8	3				
分類群	学名	2	4	6	7	8	9	10	11	13	1
イネ科	Gramineae (Grasses)										
キビ族型	Paniceae type	6	7		13		7			15	1
ヨシ属	Phragmites (reed)										
ススキ属型	Miscanthus type	57	54	7				7	7	15	
ウシクサ族A	Andropogoneae A type	13	74	65	40	20	22	29	22	29	
ウシクサ族B	Andropogoneae B type		7								
シバ属	Zoisia										
Bタイプ	Btype									29	
Cタイプ	C type									7	
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)										
メダケ節型	Pleioblastus sect. Medake	115	34	7			7				
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	408	298	22	20	7	7			7	
クマザサ属型	Sasa (except Miyakozasa)	57	68	72	27						
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Miyakozasa	38	102	108	74	190	189	189	87	58	
未分類等	Others	38	47	36	40	34	44	22	29	15	
その他のイネ科	Others										
表皮毛起源	Husk hair origin		20	7	20	14	15	15	22	22	
棒状珪酸体	Rod-shaped	121	359	274	148	68	66	51	29	146	2
未分類等	Others	77	305	224	229	238	342	290	159	269	3
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	Arboreal										
多角形板状(コナラ属など)	Polygonal plate shaped (Quercus)										
その他	Others										
植物珪酸体総数	Total	931	1374	822	612	570	699	603	354	611	7
おもな分類群の推定生産量(	単位:kg/m*·cm)										
ヨシ属	Phragmites (reed)										0.
ススキ属型	Miscanthus type	0.71	0.67	0.09				0.09	0.09	0.18	0.
メダケ節型	Pleioblastus sect. Medake	1.33	0.39	0.08			0.08				
ネザサ節型	Pleioblastus sect. Nezasa	1.96	1.43	0.10	0.10	0.03	0.03			0.03	
クマザサ属型	Sasa (except Miyakozasa)	0.43	0.51	0.54	0.20						
ミヤコザサ節型	Sasa sect. Miyakozasa	0.11	0.30	0.32	0.22	0.57	0.57	0.57	0.26	0.17	0.
タケ亜科の比率 (%)									,		
メダケ節型	Pleioblastus sect. Medake	35	15	8			12				
スタク 即坐 ネザサ節型	Pleioblastus sect. Medake Pleioblastus sect. Nezasa	51	54	10	19	5	5			17	
		11	19	51	39	b	5			17	
クマザサ属型	Sasa (except Miyakozasa)	11	19	51	39						



第31図 植物珪酸体 (プラント・オパール) の顕微鏡写真 ---- 50 μ m

### 第Ⅵ章 ま と め

#### 後期旧石器時代

AT下位のXII層の暗色帯中部から下部に相当する旧石器 I 期は、第1段階(宮崎県旧石器文化談話会2005)に相当する。石器石材は一ツ瀬川水系に伴う粗質のホルンフェルスであり、剥片の獲得に成功しておらず明確な石器が乏しい。一方で、礫群は複数基残され、いずれも掘り込み等なく、また散漫な礫分布をみせている。礫の赤化も見られない。第2~3段階(前掲に同じ)以降の一般的な礫群とは散漫な礫分布・赤化がない等、様相が異なっており、その性格等についてもここでは明言できないものの柔軟な解釈が求められよう。

AT 上位は、礫群の検出面等から3時期に分離可能 であり、旧石器Ⅱ~Ⅳ期と呼び分けた。Ⅲ期を中心に 礫群が複数検出され、I期に比較し礫分布が密になる 傾向がある。旧石器Ⅳ期には密な礫分布かつ掘り込み を持つものもみられる。石器群については時期的な細 別を避け層位別に報告したため、あらためて特徴につ いて概観しておきたい。石器はVII~IX層に包含される。 まず、各層をとおして石器石材に注目すると、至近の 一ツ瀬川等で十分に採集可能なホルンフェルス(Ⅰ期 で用いられたホルンフェルスとはあきらかに異なり良 質のもの)が石器石材として最も多用され、次いで日 東産と思われる黒曜石がある。製作される器種の相違 と石器石材との関係も明白で、在地系ホルンフェルス でナイフ形石器・掻器、日東産と思われる黒曜石で台 形石器・角錐状石器が製作されている。次に器種をみ るとIX層中には小形で平面菱形となるようなナイフ形 石器ならびにその未製品と目されるものがある。類品 はⅦ・Ⅷ層中にもみられる。掻器はⅨ層中にのみみら れる。全体をとおして剥片尖頭器・大形の角錐状石器 ・瀬戸内技法関連の資料がみられない。これらの様相 から推すと、第4段階(前掲に同じ)の石器群が中心 であり、そこに以降の資料が一部混在するという予想 が立つ。第4段階の資料は近年、新富町春日地区遺跡 第2地点(県埋セ2003)等で増加しており、今後それ らとの比較検討が求められる。

#### 縄文時代早期

今回、陥し穴状遺構を分類するにあたって、検出面を図化した平面形を分類の第一義にもってくることには躊躇を覚えた。なぜなら、本文中でも触れたように埋没過程等において肩等が崩落したものと推定され、確かに、埋土中には壁崩落土(地山ブロック)を多く含む場合もある。検出面における平面形は、本来の形状を大きく損ねている可能性が高い。そこで、最も往時の姿を残すのであろう底面の形・杭痕の有無等を分類の第一義に据えるべきかと考えた。この視点でゆくと、陥し穴状遺構は底面形態が長方形のもの1・円形のもの4となり、底面に杭痕があるのは前者のみとなる。

陥し穴状遺構のうち底面円形のものについては、各 穴の規模が一定であることや谷頭に沿って掘り込まれ ること等から、一定の有機性をもって配置されたもの と推測される。周囲には小規模ながら散礫等も確認で き、キャンプ地的な利用も見られたのであろう。

#### 縄文時代後期

該期の包含層等の残存範囲は限定されており、断片 的な調査となった。そのような中、陥し穴状遺構1基 を確認できたことは大きな成果となった。

該期の陥し穴は、縄文時代早期のものと比較するならば、形状・規模等は類似するものの、埋土については非常に軟らかい点に大きな相違点があった。この埋土が軟らかいという点は、早期のものが硬質であることと比較することで強く印象に残るものであった。こういった埋土の違いが何に由来するのか、今後も継続して検討したい。

#### 参考文献

宮崎県旧石器文化談話会2005「宮崎県下の旧石器時代遺跡概観」 『旧石器考古学』66、旧石器文化談話会

# 図 版



尾小原遺跡俯瞰(東より)



尾小原遺跡俯瞰(南より)



B区Ⅱ~Ⅲ期(Ⅶ~Ⅸa層)遺物出土状況







調査区全景 (垂直方向より)



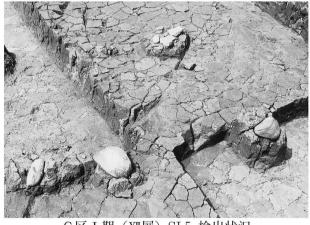
C区からA区方向を望む



B区I期(XII層)SI1·2 検出状況



B区I期(XII層)SI4 検出状況



C区I期(XII層)SI5 検出状況



C区Ⅱ~Ⅲ期(IX層)SI6 検出状況



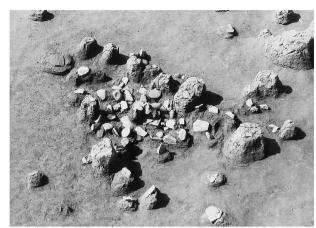
C区Ⅱ~Ⅲ期(Ⅷ層)SI8 検出状況



B区Ⅱ~Ⅲ期(Ⅷ層)遺物出土状況



C区Ⅱ~Ⅲ期(Ⅷ層)SI10 検出状況



C区Ⅱ~Ⅲ期(Ⅷ層)SI10 接写



C区Ⅱ~Ⅲ期 SI11 検出状況



C区Ⅱ~Ⅲ期 SI11 見通し



Ⅱ層遺物出土状況

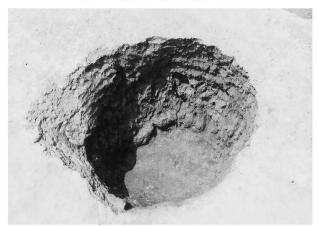


縄文時代早期散礫検出状況

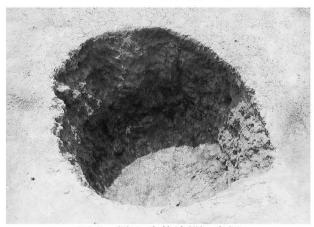




SC1 (陥し穴状遺構) 完掘



SC 2 (陥し穴状遺構) 完掘



SC3 (陥し穴状遺構) 完掘



SC 5 (陥し穴状遺構) 完掘



陥し穴状遺構の分布



SC3 (陥し穴状遺構) 完掘後断ち割り

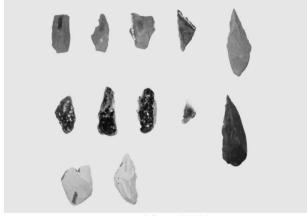


SC 6 (陥し穴状遺構) 底面の小穴群

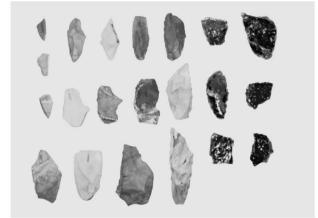




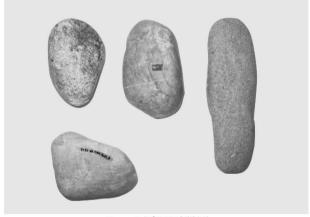
B・C区旧石器(1)



B・C区旧石器(2)



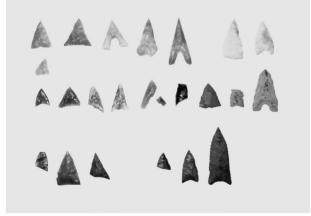
B・C区旧石器(3)



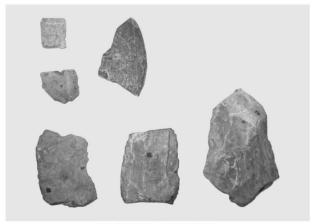
B・C区旧石器(4)



B·C区縄文土器



B·C区縄文早期石器



縄文後期・近代遺物

# 報告書抄録

ふりがな	おこばるいせき										
書名	尾小原遺跡(第一次調	(査)									
副 書 名	東九州自動車道(都農	と~西都間) 発	建設に伴う	埋蔵文化財発技	屈調查報告書						
巻 次	35	35									
シリーズ名	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書										
シリーズ番号	第133集	第133集									
執筆・編集担当者名	新町 芳伸										
発行機関	宮崎県埋蔵文化財センター										
所 在 地	〒880-0212 宮崎市佐土原町下那珂4019番地 TEL 0985-36-1171										
発行年月日	2006年 9 月22日										
ふりがな所収遺跡名	35 9 % 13	リード 北 緒		東経	調査期間	調査面積	調査原因				
<sup>2</sup> 尾	3.64 まけん こ ゆ ぐん 宮崎県児湯郡 454 しんとも54 54 54 54 55 54 54 54 54 54 54 54 54 5	01	32° 5'33"	131° 25'58"	20011101 ~ 20020830	5500 m²	東九州自動車道(都農~西都間)建設				
種別	主な時代	主な道	遺構	主な	遺物	特	特記事項				
散布地	後期旧石器時代	期旧石器時代 礫群 14基			ナイフ形石器・台形石器・掻 器・剥片・石核類・敲石類 細石刃・原石 群をなす陥した						
	縄文時代早期	陥し穴 5 g 散礫 1 g		貝殻条痕文土器・打製   剥片・石核		遺構。					
	縄文時代後期陥し穴		基	土器・二次加核・打製石斧	工ある剥片・	石					
	近世以降			焼き台							

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第133集

# 尾小原遺跡 (第一次調査)

東九州自動車道建設(都農~西都間)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書35

#### 2006年9月22日

発 行 宮崎県埋蔵文化財センター 〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地

TEL 0985 (36) 1171 FAX 0985 (72) 0660

印 刷 秀巧社印刷株式会社 〒880-0803 宮崎市旭1-8-14 TEL 0985 (24) 1072 FAX 0985 (26) 0925